

海外食料需給レポート

(Monthly Report)

平成 2 1 年 4 月

農林水産省

目 次

I 穀物

1	2008/09年度の国際的な穀物需給の概要	1
	【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂	2
2	小麦	
(1)	国際的な小麦需給の概要	3
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	4
イ	カナダ	5
ウ	オーストラリア	5
エ	EU-27	6
オ	中国	6
カ	インド	7
キ	ロシア	7
ク	アルゼンチン	8
ケ	ウクライナ	8
3	とうもろこし	
(1)	国際的なとうもろこし需給の概要	9
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	10
イ	中国	11
ウ	アルゼンチン	12
エ	ブラジル	13
オ	EU-27	13
4	大麦	
(1)	国際的な大麦需給の概要	14
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	オーストラリア	15
イ	カナダ	15
ウ	米国	16
エ	EU-27	17
オ	ウクライナ	17
カ	ロシア	18
5	ソルガム	
(1)	国際的なソルガム需給の概要	19
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	20
イ	アルゼンチン	21
ウ	中国	21

エ	オーストラリア	22
オ	インド	22
6	米	
(1)	国際的な米需給の概要	23
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	中国	24
イ	インド	24
ウ	インドネシア	25
エ	タイ	25
オ	ベトナム	26
カ	フィリピン	26

II 油糧種子

1	2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要	27
	【参考】2008/09年度油糧種子需給予測の主な改訂	28
2	大豆	
(1)	国際的な大豆需給の概要	29
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	米国	30
イ	ブラジル	31
ウ	カナダ	31
エ	中国	32
オ	アルゼンチン	32
3	なたね	
(1)	国際的ななたね需給の概要	33
(2)	主要生産・輸出国等の需給状況	
ア	カナダ	34
イ	オーストラリア	34
ウ	EU-27	35
エ	中国	35
オ	インド	36

III 今月のトピックス

○	大豆を巡る中国国内の需給状況	37
	【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）	39
	【利用上の注意】	40

I 穀物

1 2008/09年度の国際的な穀物需給の概要

○2008/09年度の穀物需給（予測）のポイント

2008/09年度の穀物需給は、小麦の価格高騰を背景とした作付増加や北半球の主要生産国で天候に恵まれたことなどから世界的な増産が実現し、穀物全体としては、消費量を上回る生産量が確保されると見込まれる。

また、期末在庫量が積み上げられることから、穀物全体の需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

世界の穀物全体の生産量は、小麦を中心とした増加から前年度より103.3百万トン増加（4.9%）し、2,220.7百万トンとなる見込みである。

品目別には、とうもろこしについては、EU、中国等で良好な天候等を反映した増産から生産量が増加しているものの、米国において連作障害への懸念などで作付けが縮小したことなどから生産量が減少、小麦については、作付期の価格高騰による世界的な増産意欲の高まりなどで作付が拡大したことに加え、北半球で天候が順調に推移し作柄に恵まれたことなどから生産量が増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の穀物全体の消費量は、堅調な食用、飼料用の需要の増加などから、前年度より52.1百万トン増加（2.5%）し、2,150.9百万トンとなる見込みである。

また、飼料に用いられる穀物については、品目間での代替が可能であり、品目間の相対価格の変動等に伴い飼料用需要の移動が見られる。前年度は小麦価格の高騰によりとうもろこし、ソルガムへの移動がみられたが、本年度はとうもろこしから小麦等への移動が見込まれている。

【貿易量】

世界の穀物全体の貿易量は、前年度より14.9百万トン減少（▲5.4%）し、259.8百万トンとなる見込みである。

品目別には、小麦については、輸出国であるウクライナ、EU、オーストラリア等の生産回復や飼料用需要の伸びなどから貿易量の増加が見込まれている。一方、とうもろこしについては、昨年度急増したEUの輸入量の減少や飼料用需要の減少を背景として貿易量の減少が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の穀物全体の期末在庫量は、生産量が消費量を上回ると見込まれていることから前年度より69.8百万トン増加（19.4%）し、430.3百万トンとなる見込みである。また、穀物全体の期末在庫率は、期末在庫量が積み増しされ、20.0%と2.8ポイント上昇する見込みである。

品目別には、小麦、米については生産量の増加等から、とうもろこしについては飼料用需要の減退による消費量の伸びの鈍化等から、生産量が消費量を上回り期末在庫量を積み増しし、期末在庫率も2割程度となり、需給の引き締まりは緩和すると見込まれている。

表－1 世界の穀物需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2000.8	2117.4	2220.7	▲ 4.8	4.9
穀物計				▲ 2.4	12.0
小麦	595.6	609.1	682.1	▲ 2.5	2.0
粗粒穀物	984.8	1,076.4	1,097.6	▲ 0.7	▲ 0.6
(とうもろこし)	711.1	790.9	786.5	▲ 0.7	15.7
(大 麦)	136.5	133.0	153.8	▲ 1.3	▲ 1.3
(ソルガム)	55.3	63.3	62.4	▲ 0.2	2.1
米	420.4	431.9	441.1		
消費量	2048.2	2098.8	2150.9	▲ 3.9	2.5
穀物計				▲ 2.4	5.1
小麦	615.2	614.9	646.3	▲ 1.6	1.5
粗粒穀物	1,011.8	1,055.7	1,071.1	0.3	0.4
(とうもろこし)	727.0	770.0	772.7	▲ 1.2	7.5
(大 麦)	143.9	133.9	143.9	▲ 0.7	▲ 0.8
(ソルガム)	56.0	63.1	62.6	0.1	1.2
米	421.2	428.3	433.5		
うち、飼料用	740.0	747.0	759.4	▲ 2.8	1.7
穀物計				▲ 1.7	25.4
小麦	106.2	94.1	118.0	▲ 1.1	▲ 1.8
粗粒穀物	633.8	652.9	641.4	▲ 0.1	▲ 3.7
(とうもろこし)	477.7	495.8	477.3	▲ 0.6	8.9
(大 麦)	99.0	90.8	98.9	▲ 0.3	▲ 10.1
(ソルガム)	22.0	28.9	26.0
米		
貿易量	260.3	274.7	259.8	3.7	▲ 5.4
穀物計				2.7	9.5
小麦	111.6	117.0	128.0	1.1	▲ 19.3
粗粒穀物	117.4	126.9	102.5	1.2	▲ 23.4
(とうもろこし)	93.8	98.3	75.3	▲ 0.0	23.3
(大 麦)	15.3	15.6	19.2	▲ 0.1	▲ 49.5
(ソルガム)	5.5	9.6	4.9	0.0	▲ 4.9
米	31.3	30.8	29.3		
期末在庫量	342.0	360.5	430.3	1.2	19.4
穀物計				2.3	29.2
小麦	128.2	122.4	158.1	▲ 1.1	16.6
粗粒穀物	138.9	159.6	186.1	▲ 1.3	10.6
(とうもろこし)	108.7	129.6	143.3	0.7	49.2
(大 麦)	21.1	20.2	30.1	▲ 0.5	▲ 4.7
(ソルガム)	4.4	4.6	4.3	0.1	9.7
米	74.9	78.5	86.1		
期末在庫率	16.7%	17.2%	20.0%	0.1	2.8
穀物計				0.4	4.6
小麦	20.8%	19.9%	24.5%	▲ 0.1	2.3
粗粒穀物	13.7%	15.1%	17.4%	▲ 0.2	1.7
(とうもろこし)	15.0%	16.8%	18.5%	▲ 0.6	5.9
(大 麦)	14.7%	15.1%	20.9%	▲ 0.7	▲ 0.3
(ソルガム)	7.9%	7.2%	6.9%	0.0	1.5
米	17.8%	18.3%	19.9%		

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS &D」

注: 期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度穀物需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量は米が上方修正されているものの、小麦、とうもろこし、大麦、ソルガムとも下方修正されており、穀物全体で4.8百万トン下方修正されている。一方、消費量はEUの小麦の飼料用需要やロシアの大麦の飼料用需要などを中心に下方修正されており、穀物全体で3.9百万トン下方修正されている。また、期末在庫量は期首在庫の上方修正により1.2百万トン上方修正され、前月に引き続き需給は緩和傾向に修正された。なお、生産量の下方修正は、エチオピアの2割程度下方修正（穀物全体）が大きく影響している。

○ 小麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 2.4	▲ 2.4	▲ 1.7	2.7	...	2.3
米国	-	0.6	0.5	-	0.1	▲ 0.4
カナダ	-	-	-	▲ 1.5	-	1.5
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
EU-27	-	▲ 2.0	▲ 2.0	1.5	0.5	1.0
中国	-	-	-	-	0.1	0.1
インド	-	-	-	-	-	-
ロシア	-	-	-	0.5	-	▲ 0.5
アルゼンチン	-	-	-	1.0	-	0.3
ウクライナ	-	-	-	1.0	-	▲ 1.0

○ とうもろこし

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 0.7	0.3	▲ 0.1	1.2	...	▲ 1.3
米国	-	1.0	1.3	-	-	▲ 1.0
中国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	-	-	-	-	-	-
ブラジル	1.0	-	-	-	-	1.0
EU-27	-	-	-	-	-	-

資料：USDA

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

○ 大麦

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 0.7	▲ 1.2	▲ 0.6	▲ 0.0	...	0.7
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
カナダ	-	-	-	-	-	-
米国	-	▲ 0.1	▲ 0.1	▲ 0.0	-	0.1
EU-27	-	-	-	-	-	-
ウクライナ	-	-	-	-	-	-
ロシア	-	▲ 0.5	▲ 0.5	-	-	0.5

○ ソルガム

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 1.3	▲ 0.7	▲ 0.3	▲ 0.1	...	▲ 0.5
米国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	▲ 0.7	▲ 0.4	▲ 0.4	▲ 0.1	-	▲ 0.3
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
中国	▲ 0.2	0.4	▲ 0.1	▲ 0.1	0.0	▲ 0.0
インド	-	▲ 0.1	-	-	-	0.0

○ 米

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 飼料用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.2	0.1	...	-	...	0.1
中国	-	-	...	-	-	0.0
インド	-	-	...	-	-	-
インドネシア	-	-	...	-	-	0.0
タイ	-	-	...	-	-	0.0
ベトナム	0.3	0.1	...	-	0.1	0.3
フィリピン	▲ 0.1	-	...	-	-	▲ 0.1

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締まりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、作付時期の価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年度の干ばつや天候不順による単収低下も回復したことなどから、EU、ロシア、米国等で増産となり、世界全体では前年度より73.0百万トン増加（12.0%）し、682.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.4百万トン下方修正されたが、主要生産国には変動がなかった。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、米国、ロシア等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より31.4百万トン増加（5.1%）し、646.3百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.4百万トン下方修正されており、国別には米国が上方修正、EUが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、11.0百万トン増加（9.5%）し、128.0百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、EU、オーストラリア等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、エジプトで輸入量の増加、モロッコ、EU、アルジェリア等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.7百万トン上方修正されており、国別にはEU、アルゼンチン、ウクライナ等の輸出量、EU、エジプトの輸入量が上方修正され、カナダの輸出量、インドネシア、モロッコの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、ロシア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より35.7百万トン増加（29.2%）し、158.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も24.5%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で2.3百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、EU、中国が上方修正され、ロシア、米国が下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	595.6	609.1	682.1	▲ 2.4	12.0
EU-27	124.9	119.4	150.3	-	25.8
中国	108.5	109.3	113.0	-	3.4
インド	69.4	75.8	78.6	-	3.7
米国	49.2	55.8	68.0	-	21.9
ロシア	44.9	49.4	63.7	-	28.9
カナダ	25.3	20.1	28.6	-	42.7
オーストラリア	10.8	13.8	21.5	-	55.4
消費量	615.2	614.9	646.3	▲ 2.4	5.1
うち飼料用	106.2	94.1	118.0	▲ 1.7	25.4
EU-27	125.5	117.7	127.5	▲ 2.0	8.3
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	41.2	-	9.3
米国	30.9	28.6	34.1	0.6	19.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.6	117.0	128.0	2.7	9.5
(輸出)					
米国	24.7	34.4	26.7	-	▲ 22.5
カナダ	19.4	16.1	17.5	▲ 1.5	8.4
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	-	86.7
EU-27	13.9	12.3	21.0	1.5	71.1
ロシア	10.8	12.2	16.5	0.5	35.0
アルゼンチン	10.5	11.2	4.5	1.0	▲ 59.7
ウクライナ	3.4	1.2	11.0	1.0	787.1
(輸入)					
エジプト	7.3	7.7	8.2	0.4	6.5
ブラジル	8.1	6.7	6.0	-	▲ 10.6
アルジェリア	4.9	5.9	5.6	-	▲ 5.1
インドネシア	5.6	5.2	5.3	▲ 0.3	1.5
日本	5.7	5.7	5.5	-	▲ 3.5
EU-27	5.1	6.9	6.5	0.5	▲ 6.3
モロッコ	1.8	4.2	3.5	▲ 0.3	▲ 16.5
期末在庫量	128.2	122.4	158.1	2.3	29.2
中国	38.5	41.0	46.4	0.1	13.3
米国	12.4	8.3	19.0	▲ 0.4	127.7
EU-27	14.0	10.4	18.7	1.0	79.4
オーストラリア	4.4	4.7	5.8	-	24.2
インド	4.5	6.4	7.2	-	12.5
ロシア	2.4	2.3	8.6	▲ 0.5	273.9
カナダ	6.8	4.8	8.1	1.5	67.6
期末在庫率	20.8%	19.9%	24.5%	0.4	4.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より12.2百万トン増加（21.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より5.0百万トン増加（19.4%）し、34.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.7百万トン減少（▲22.5%）し、26.7百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、10.7百万トン増加（127.7%）と大幅に積み増しされ、19.0百万トンとなり、期末在庫率も31.2%（18.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量が飼料用需要を中心に0.6百万トン上方修正された。また、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.4百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度冬小麦の作柄は、優良が7%と前年度の同時期や最終に比べ低く、優良～普通までの合計では73%と前年度の最終の76%を3ポイント下回っている。また、作付面積は、2008/09年度より1.7百万ha減少（▲7%）し、17.4百万haとなっている。

出穂率は主要18州で平均で、14%と（過去5年の平均に比べて2ポイント）進展しているが、テキサス州とオクラホマ州南部で干ばつが発生しており、冬小麦の作柄に影響が出ている。今後の天候に注視が必要である。

2009/10年度の春小麦については、レッド川の洪水に代表されるような雨がちな天候からノースダコタ州、サウスダコタ州で作付けが遅れている等、主要6州で6%と（過去5年の平均に比べて5ポイント）遅れており、今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.0%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度20.8%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.2	55.8	68.0	-	21.9
消費量	30.9	28.6	34.1	0.6	19.4
うち飼料用	3.2	0.4	6.8	0.5	1558.5
輸 出 量	24.7	34.4	26.7	-	▲ 22.5
輸 入 量	3.3	3.1	3.4	0.1	10.7
期末在庫量	12.4	8.3	19.0	▲ 0.4	127.7
期末在庫率	22.3%	13.2%	31.2%	▲ 1.0	18.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	-	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.70	3.02	-	11.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄(4月19日現在)

〔生育進捗状況（2009/10年度冬小麦、2009/10年度春小麦）〕

冬小麦(主要18州)

出穂率 14%（平年差：+2 p、前年差：▲7 p）

春小麦(主要6州)

作付率 6%（平年差：▲15 p、前年差：▲13 p）

〔作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州、2008/09年度春小麦：主要6州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	7	36	30	14	13
	前年度同時期	8	37	34	13	8
	前年度最終	10	36	30	14	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より8.5百万トン増加(42.7%)し、28.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加(30.8%)し、8.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.4百万トン増加(8.4%)し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.3百万トン増加(67.6%)し、8.1百万トンとなり、期末在庫率も31.4%(9.9ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸出量が1.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が1.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、9月頃無事終了した。2009/10年度の小麦の作付面積について、カナダ農務農産食料省(AAFC)は前年度より0.79百万ha減少(▲7.8%)し、9.40百万haとなると推計している。4月現在、マニトバ州南部を除いて、降水量が少なく、作付けに向けて土壌水分が不足している。今後の天候に注視が必要である。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産からほぼ回復し、前年度より7.7百万トン増加(55.4%)し、21.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン増加(4.0%)し、6.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(86.7%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン増加(24.2%)し、5.8百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は28.3%(5.7ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は11月から12月頃終了した。2009/10年度の小麦の作付については、クイーンズランド州南部では、11月～12月及び2月に十分な降雨があった。今後の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2008年数量ベース20.4%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.2%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度13.7%)

表-3 カナダの小麦需給(市場年度:8月～翌年7月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	25.3	20.1	28.6 (28.6)	-	42.7
消費量	9.0	6.3	8.2 (8.6)	-	30.8
うち飼料用	4.8	2.1	3.5 (3.9)	-	69.9
輸 出 量	19.4	16.1	17.5 (17.8)	▲ 1.5	8.4
輸 入 量	0.3	0.4	0.4 (0.0)	-	▲ 2.6
期末在庫量	6.8	4.8	8.1 (6.8)	1.5	67.6
期末在庫率	23.9%	21.5%	31.4% (25.8%)	7.2	9.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.03 (10.03)	-	16.1
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.85 (2.85)	-	22.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (March 6, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2008年数量ベース16.1%)
世界の生産量シェア 8位 (2008/09年度 3.2%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度10.9%)

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度:10月～翌年9月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	10.8	13.8	21.5 (21.4)	-	55.4
消費量	7.4	6.2	6.5 (6.8)	-	4.0
うち飼料用	4.7	3.5	3.8 (3.8)	-	7.1
輸 出 量	8.7	7.5	14.0 (11.7)	-	86.7
輸 入 量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3
期末在庫量	4.4	4.7	5.8 (…)	-	24.2
期末在庫率	27.3%	34.0%	28.3% (…)	-	▲ 5.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.80	12.70	13.50 (13.55)	-	6.3
単収(t/ha)	0.92	1.09	1.59 (1.58)	-	45.9

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことによる作付面積の増大や天候に恵まれたことによる単収の増加などにより、前年度より30.9百万トン増加(25.8%)し、150.3百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし等の価格高騰により飼料用需要増加が見込まれることから前年度より9.8百万トン増加(8.3%)し、127.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから8.7百万トン増加(71.1%)し、18.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は8.3百万トン増加(79.4%)し、18.7百万トンとなり、期末在庫率も12.6%(4.6ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、飼料用需要が前月と比べて減少したため、消費量が下方修正された。また、輸出が順調に伸びていることを受け、輸出量が1.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は9月頃終了した。2009/10年度の冬小麦に関し、フランス、イタリアで冬期の降雨のため作付が遅れた。英国でも秋の悪天候や市場の低価格のため作付面積が減少した。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収が増加し、前年度より3.7百万トン増加(3.4%)し、113.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.0百万トン減少(▲73.6%)し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は5.4百万トン増加(13.3%)し46.4百万トンとなり、期末在庫率も43.1%(4.7ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は6月頃終了した。

2009/10年度の冬小麦については、干ばつが発生していたものの、2月下旬から降雨があり、見通しが改善されている。なお、小麦赤さび病の被害を受けた面積が昨年より拡大する見込みであり、引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている(20%→3%)。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位(2008/09年度22.0%)
輸出量シェア2位(2008/09年度16.4%)

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.4	150.3 (151.3)	-	25.8
消費量	125.5	117.7	127.5 (129.1)	▲2.0	8.3
うち飼料用	60.2	52.4	60.0 (57.7)	▲2.0	14.4
輸出量	13.9	12.3	21.0 (21.6)	1.5	71.1
輸入量	5.1	6.9	6.5 (6.8)	0.5	▲6.3
期末在庫量	14.0	10.4	18.7 (17.4)	1.0	79.4
期末在庫率	10.1%	8.0%	12.6% (11.5%)	0.7	4.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.66	26.77 (...)	-	8.6
単収(t/ha)	5.10	4.84	5.61 (...)	-	15.9

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (26 March 2009)]

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.6%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.3	113.0 (112.5)	-	3.4
消費量	102.0	104.0	107.0 (...)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (...)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	0.8 (0.8)	-	▲73.6
輸入量	0.4	0.1	0.2 (0.2)	0.1	300.0
期末在庫量	38.5	41.0	46.4 (...)	0.1	13.3
期末在庫率	36.7%	38.3%	43.1% (...)	▲0.2	4.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.61	23.72	24.00 (...)	-	1.2
単収(t/ha)	4.59	4.61	4.71 (...)	-	2.2

資料:USDA [World Agricultural Supply and Demand Estimates]、
[Grain:World Markets and Trade]、
[World Agricultural Production]
IGC [Grain Market Report (26 March 2009)]

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.8百万トン増加（3.7%）し、過去最大の78.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加（300.0%）し、0.2百万トンとなる見込みである。）

輸入量は前年度より1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン増加（12.5%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.3%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける2008/09年度の小麦の収穫は、昨年4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の小麦の作付面積は、前年度の2,800万haから2,980万haに増加する見込みであるが、主要産地のラージャスターン州で大雨や雹が降ったこと等が影響して生産量は減少する見込みである。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことや、生育期に天候に恵まれたことなどから、前年度より14.3百万トン増加（28.9%）し、63.7百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.5百万トン増加（9.3%）し、41.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから4.3百万トン増加（35.0%）し、16.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、6.3百万トン増加（273.9%）し、8.6百万トンとなり、期末在庫率も14.9%（10.3ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、近隣諸国への輸出が好調なことから輸出量が0.5百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、作付面積は減少したが、一部の冬枯れを除いて、作柄は良好な見通しである。2009/10年度の春小麦は、小麦の相場が低価格であることや経済危機の影響で作付が減少する見込みである。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.5%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.6 (78.6)	-	3.7
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸 出 量	0.2	0.1	0.2 (0.5)	-	300.0
輸 入 量	6.7	1.9	0.0 †	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	12.5
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.3% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.15 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.79 (…)	-	3.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.3%） 輸出量シェア4位（2008/09年度12.9%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	63.7 (63.7)	-	28.9
消費量	36.4	37.7	41.2 (41.6)	-	9.3
うち飼料用	14.1	15.1	17.2 (15.8)	-	14.3
輸 出 量	10.8	12.2	16.5 (15.8)	0.5	35.0
輸 入 量	0.9	0.4	0.3 (0.2)	-	▲ 31.8
期末在庫量	2.4	2.3	8.6 (9.2)	▲ 0.5	273.9
期末在庫率	5.0%	4.6%	14.9% (16.0%)	▲ 1.0	10.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	-	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.39 (…)	-	18.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付の減少や生育不良などから前年度より8.4百万トン減少（▲50.0%）し、8.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並の5.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから6.7百万トン減少（▲59.7%）し、4.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は1.1百万トン減少（▲71.9%）し0.5百万トンとなり、期末在庫率も4.7%（5.1ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測から輸出量が1.0百万トン上方修正されたことと、2006/07年度の実生産量が0.8百万トン、2007/08年度の実生産量が0.5百万トンそれぞれ上方修正されたことにより2008/09年度の期首在庫が上方修正され、その結果、期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の実収穫は12月頃終了した。主要産地での激しい干ばつによる播種の遅れ、作付面積の縮小、11月の霜害等の影響に加え、施肥量の減少があり、生産量は大幅に減少する見込みである。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため停止しており、手続きの再開時期は未定である。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことや、生育時に天候に恵まれたことなどから、前年度より12.0百万トン増加（86.3%）し、25.9百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加（11.6%）し、14.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから9.8百万トン増加（787.1%）し、11.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.6百万トン増加（39.2%）し2.1百万トンとなり、期末在庫率は8.4%（2.4ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、新規市場への輸出が伸びていることから、輸出量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、気候が例年より良好であったことから、冬枯れの被害は最小限となると見込まれている。

2009/10年度の春小麦の作付は、2月の寒波以降、天候が良好となったことから進展しているが、作付面積については減少の見込みである。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア 8 位（2008/09年度 3.5%）

表－9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	16.0	16.8	8.4 (8.5)	-	▲ 50.0	
消費量	4.9	5.1	5.1 (5.1)	-	▲ 1.0	
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0	
輸出量	10.5	11.2	4.5 (3.6)	1.0	▲ 59.7	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-	
期末在庫量	1.1	1.6	0.5 (0.5)	0.3	▲ 71.9	
期末在庫率	7.2%	9.8%	4.7% (5.7%)	2.9	▲ 5.1	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.29	5.76	4.20 (...)	-	▲ 27.1	
単収(t/ha)	3.03	2.92	2.00 (...)	-	▲ 31.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

（世界の輸出量シェア 6 位（2008/09年度 8.6%）

表－10 ウクライナの実需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	14.0	13.9	25.9 (25.9)	-	86.3	
消費量	11.7	12.9	14.4 (14.0)	-	11.6	
うち飼料用	2.1	3.1	4.4 (2.9)	-	41.9	
輸出量	3.4	1.2	11.0 (10.0)	1.0	787.1	
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲ 69.7	
期末在庫量	1.4	1.5	2.1 (4.0)	▲ 1.0	39.2	
期末在庫率	9.5%	10.8%	8.4% (16.7%)	▲ 4.4	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.05 (...)	-	18.5	
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.67 (...)	-	56.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

3 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要

○2008/09年度のとうもろこし需給（予測）のポイント

とうもろこしの供給面では、EU、中国等で増加するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国において昨年度に拡大した作付けが今年度は縮小に転じ、生産量が減少することが見込まれることから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、中国、インド、ブラジル等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増され、期末在庫率も上昇し、需給は緩和すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、EU、中国等で増加するものの、世界第1位の生産・輸出国である米国において作付け縮小などにより減少が見込まれ、世界全体では前年度より4.4百万トン減少（▲0.6%）し、786.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン下方修正されており、国別にはブラジルで単収の改善から上方修正された。

【消費量】

消費量は、EU等で飼料用需要が減少するものの、中国、インド、ブラジル等で飼料用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より2.7百万トン増加（0.4%）し、772.7百万トンとなる見込みである。なお、世界全体の飼料用需要の減少見込みは、米国での飼料用需要の減少が大きく影響している。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別には米国で飼料用需要の増加から上方修正され、輸入の鈍化や食肉生産の停滞などからメキシコが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量（輸出量）は、前年度より23.0百万トン減少（▲23.4%）し、75.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の約6割を占める米国で輸出量の減少が、ウクライナ等で増加が見込まれている。一方、輸入国では、EUで生産量の回復から輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン上方修正されており、国別にはウクライナの輸出量が上方修正され、インドの輸出量とメキシコの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、中国、米国等で積み増され、世界全体では前年度より13.7百万トン増加（10.6%）し、143.3百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も18.5%（1.7ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.3百万トン下方修正されており、国別には米国が下方修正され、ブラジル等が上方修正された。

表－1 世界のとうもろこし需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	711.1	790.9	786.5	▲ 0.7	▲ 0.6
米国	267.5	331.2	307.4	-	▲ 7.2
中国	151.6	152.3	165.5	-	8.7
ブラジル	51.0	58.6	50.5	1.0	▲ 13.8
EU-27	53.8	47.7	61.4	-	28.7
アルゼンチン	22.5	22.0	13.5	-	▲ 38.6
メキシコ	22.4	23.6	25.0	-	5.9
インド	15.1	19.0	17.0	-	▲ 10.3
消費量	727.0	770.0	772.7	0.3	0.4
うち飼料用	477.7	495.8	477.3	▲ 0.1	▲ 3.7
米国	230.7	261.7	262.6	1.0	0.4
中国	145.0	149.0	152.0	-	2.0
EU-27	62.3	63.5	60.5	-	▲ 4.7
ブラジル	41.0	42.5	44.5	-	4.7
メキシコ	30.7	32.0	31.5	▲ 0.5	▲ 1.6
インド	13.9	14.2	16.3	-	14.8
日本	16.5	16.5	16.5	-	0.0
貿易量	93.8	98.3	75.3	1.2	▲ 23.4
(輸出)					
米国	54.0	61.9	43.2	-	▲ 30.2
アルゼンチン	15.3	15.0	7.0	-	▲ 53.3
ブラジル	10.8	7.5	9.5	-	26.7
ウクライナ	1.0	2.1	4.5	0.5	117.4
南アフリカ	0.5	2.0	2.5	-	25.0
パラグアイ	2.1	1.1	1.0	-	▲ 4.9
インド	1.2	4.5	0.4	▲ 1.6	▲ 91.1
(輸入)					
日本	16.7	16.6	16.5	-	▲ 0.7
メキシコ	8.9	9.6	7.0	▲ 0.5	▲ 26.8
韓国	8.7	9.3	6.5	-	▲ 30.3
EU-27	7.1	14.0	2.0	-	▲ 85.7
台湾	4.3	4.2	3.5	-	▲ 16.7
エジプト	4.8	4.2	4.0	-	▲ 3.6
コロンビア	3.4	3.3	2.8	-	▲ 14.3
期末在庫量	108.7	129.6	143.3	▲ 1.3	10.6
中国	36.6	39.4	52.5	-	33.3
米国	33.1	41.3	43.2	▲ 1.0	4.7
ブラジル	3.6	12.8	9.8	1.0	▲ 23.5
EU-27	7.4	5.0	5.8	-	17.2
メキシコ	3.1	4.1	4.5	0.2	9.7
南アフリカ	1.7	3.7	3.5	-	▲ 5.4
ロシア	3.1	4.1	4.5	0.2	9.7
期末在庫率	15.0%	16.8%	18.5%	▲ 0.2	1.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) とうもろこしの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、連作障害への懸念や原油価格高騰等によるコスト高により、昨年度に大幅に拡大した作付けが縮小しており、前年度より23.8百万トン減少（▲7.2%）し、307.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料に用いられるとうもろこしの価格高騰による食肉生産の縮小に伴い飼料用需要の減少が見込まれる一方で、エタノール原料用需要の増加が見込まれることから前年度より0.9百万トン増加（0.4%）し、262.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、EUの輸入急減と米国以外の国の増産に伴う国際貿易市場での競争を背景として、前年度より18.7百万トン減少（▲30.2%）し、43.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より1.9百万トン増加（4.7%）し、43.2百万トンとなり、期末在庫率も14.1%（1.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、建設資材や紙製品に対する需要の減少からとうもろこしを原料とするでんぷん需要が減少する一方、3月1日現在の四半期在庫調査結果が予想を上回る飼料用需要を示したことから消費量は1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のとうもろこしの2008/09年度の収穫はコーンベルト西北部地域の一部を除き、12月頃に終了した。

作柄については、優良～良が64%と前年度の最終（47%）を上回っている。

なお、2009/10年度については、とうもろこしの主要18州の作付進捗率は4月19日現在で5%となっており、中西部において低温で雨がちな天候が続いたことから、前年度に比べれば1ポイント進んでいるものの、過去5年の平均に比べ9ポイントほど進捗が遅れている。

（我が国の輸入先国シェア1位（2008年数量ベース 98.9%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 39.1%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度 57.3%）

表-2 米国のとうもろこし需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	267.5	331.2	307.4	-	▲ 7.2
消費量	230.7	261.7	262.6	1.0	0.4
うち飼料用	142.0	150.8	135.9	1.3	▲ 9.9
エタノール用	53.8	76.9	94.0	-	22.3
輸 出 量	54.0	61.9	43.2	-	▲ 30.2
輸 入 量	0.3	0.5	0.4	-	▲ 25.5
期末在庫量	33.1	41.3	43.2	▲ 1.0	4.7
期末在庫率	11.6%	12.8%	14.1%	▲ 0.4	1.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.59	35.01	31.83	-	▲ 9.1
単収(t/ha)	9.36	9.46	9.66	-	2.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

○ 米国とうもろこしの生育進捗状況（4月19日現在）及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度とうもろこし）〕

作付率 5%（平年差：▲9 p、前年差：+1 p）

〔作柄〕

		単 位 : %				
		優良	良	普通	不良	極不良
とうもろこし	2008/09	17	47	25	8	3
	前年度同時期
	前年度最終	12	35	28	15	10

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、作柄については2008年11月2日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、日照と高い気温、豊富な降雨に恵まれ前年度より13.2百万トン増加（8.7%）し、165.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要を中心に前年度より3.0百万トン増加（2.0%）し、152.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲9.1%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より13.1百万トン増加（33.3%）し、52.5百万トンとなり、期末在庫率は34.4%（8.1ポイント増）と大幅に上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

中国のとうもろこしの収穫は9月中・下旬から始まり、主産地の北東部地域で11月頃に収穫は終了した。7～8月に好天に恵まれたことから豊作となった。なお、新穀が市場に大量に出回ったことから、中国政府は4度の買上げ（計40.0百万トン計画）を行い、主な産地では価格が上昇してきている。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課していたが、12月1日から輸出税は撤廃されている。

（世界の生産量シェア 2位（2008/09年度 21.0%））

表－3 中国のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	151.6	152.3	165.5 (165.5)	-	8.7
消費量	145.0	149.0	152.0 (154.0)	-	2.0
うち飼料用	104.0	105.0	110.0 (105.0)	-	4.8
輸 出 量	5.3	0.6	0.5 (1.0)	-	▲ 9.1
輸 入 量	0.0	0.0	0.1 (0.2)	-	150.0
期末在庫量	36.6	39.4	52.5 (58.9)	-	33.3
期末在庫率	24.4%	26.3%	34.4% (38.0%)	-	8.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.46	29.48	29.40 (…)	-	▲ 0.3
単収 (t/ha)	5.33	5.17	5.63 (…)	-	8.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 March 2009)」

ウ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、肥料価格の高騰をはじめとした生産コスト高などが農家の生産意欲を抑え、大豆等の作付けにシフトしたことや長引く干ばつの影響で収穫面積が減少することに加え、単収も減少することから、前年度より8.5百万トン減少（▲38.6%）し、13.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少に伴い前年度より0.3百万トン減少（▲4.3%）し、6.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから前年度より8.0百万トン減少（▲53.3%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.2百万トン減少（▲11.7%）し、1.5百万トンとなり、期末在庫率は11.0%（3.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンのとうもろこしについては、4月22日現在の収穫進捗率は70.7%となっている。コルドバ州とブエノスアイレス州の一部地域の収量は平年並みと予想されているが、エントレリオス州やサンタフェ州などその他の産地では2月に広範囲に降雨があったものの、時期が遅く、作柄を回復させるまでには到らなかった。高温・乾燥状態が続いたことで壊滅的打撃を受け、とうもろこしの栽培を断念した農家も出ている。一部は収穫されず、牧草として利用される。なお、1月26日に非常事態が宣言されている。加えて、主要産地の農家は施肥量を減らしているため、単収のさらなる低下が懸念されている。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年2月に再開されたが、9月中旬頃から輸出登録を停止した。再開時期は未定となっている。なお、輸出業者が輸出税を前払いすれば、申告から120日以内に出荷、船積みすれば良いこととなっている。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

（我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース 0.5%）
世界の輸出量シェア 3位（2008/09年度 9.3%））

表-4 アルゼンチンのとうもろこし需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.5	22.0	13.5 (14.0)	-	▲ 38.6
消費量	6.7	7.0	6.7 (6.6)	-	▲ 4.3
うち飼料用	4.8	5.1	4.8 (4.8)	-	▲ 5.9
輸 出 量	15.3	15.0	7.0 (7.9)	-	▲ 53.3
輸 入 量	0.0	0.1	0.0 (0.0)	-	…
期末在庫量	1.7	1.7	1.5 (1.0)	-	▲ 11.7
期末在庫率	7.5%	7.8%	11.0% (6.8%)	-	3.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.80	3.41	2.25 (…)	-	▲ 34.0
単収(t/ha)	8.04	6.45	6.00 (…)	-	▲ 7.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC「Grain Market Report (26 March 2009)」

エ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、とうもろこし価格の低下と肥料価格の高騰をはじめとした生産コスト高などが農家の生産意欲を減退させ、作付面積が減少することに加え、南部での干ばつの影響で単収も減少することから、前年度より8.1百万トン減少（▲13.8%）し、50.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より2.0百万トン増加（4.7%）し、44.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.0百万トン増加（26.7%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より3.0百万トン減少（▲23.5%）し、9.8百万トンとなり、期末在庫率も18.1%（7.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、最大生産州のパラナ州で予想よりも単収が高かったことから生産量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量も1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの夏とうもろこしは、主要産地のパラナ州やリオグランデドスル州など南部の各州で11月中旬から1月まで続いた干ばつにより受粉期から登熟初期にあったとうもろこしの作付が悪化した。4月7日現在、収穫進捗率は約60%となっている。早期大豆の収穫後に、1月から冬とうもろこしの作付けが始まり、4月3日現在の作付進捗率は98.2%でほぼ終了した。主要産地のパラナ州とマトグロソ州において大豆の収穫が遅れたため、作付けが遅れた。作付けの遅れにより例年のない降雨や降霜の影響を受ける可能性があり、今後の天候に注視が必要である。

オ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、おおむね良好な天候に恵まれ、昨年度の干ばつの影響を受けたハンガリー、ルーマニア等の単収の回復などから前年度より13.7百万トン増加（28.7%）し、61.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、小麦の生産回復により飼料用需要が減少することから前年度より3.0百万トン減少（▲4.7%）し、60.5百万トンとなる見込みである。

輸入量は、生産量の回復などから前年度より12.0百万トン減少（▲85.7%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから前年度より0.8百万トン増加（17.2%）し、5.8百万トンとなり、期末在庫率も9.3%（1.6ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

主要生産国の収穫は12月頃までに終了している。EU諸国においては、おおむね良好な作柄となっている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

（世界の生産量シェア4位（2008/09年度 6.4%））
（輸出量シェア2位（2008/09年度 12.6%））

表-5 ブラジルのとうもろこし需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 （見込み）	2008/09		
			予測値 (CONAB)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	51.0	58.6	50.5 (51.9)	1.0	▲ 13.8
消費量	41.0	42.5	44.5 (47.0)	-	4.7
うち飼料用	34.5	36.0	37.0 (…)	-	2.8
輸出量	10.8	7.5	9.5 (8.0)	-	26.7
輸入量	1.4	0.6	0.5 (0.4)	-	▲ 16.7
期末在庫量	3.6	12.8	9.8 (9.2)	1.0	▲ 23.5
期末在庫率	6.9%	25.6%	18.1% (16.7%)	1.9	▲ 7.5
（参考）					
収穫面積(百万ha)	14.00	14.70	14.20 (14.19)	-	▲ 3.4
単収(t/ha)	3.64	3.99	3.56 (3.66)	0.07	▲ 10.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」

CONAB 「Acompanhamento da Safra Brasileira de Grãos」 (7 Abril 2009)

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度 7.8%））

表-6 EU-27のとうもろこし需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 （見込み）	2008/09		
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	53.8	47.7	61.4 (62.9)	-	28.7
消費量	62.3	63.5	60.5 (62.2)	-	▲ 4.7
うち飼料用	49.2	50.5	46.5 (47.6)	-	▲ 7.9
輸出量	0.7	0.6	2.0 (2.0)	-	239.0
輸入量	7.1	14.0	2.0 (2.5)	-	▲ 85.7
期末在庫量	7.4	5.0	5.8 (7.1)	-	17.2
期末在庫率	11.7%	7.8%	9.3% (11.0%)	-	1.6
（参考）					
収穫面積(百万ha)	8.49	8.40	8.96 (…)	-	6.6
単収(t/ha)	6.34	5.67	6.85 (…)	-	20.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」

IGC 「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

4 大麦

(1) 国際的な大麦需給の概要

○2008/09年度の大麦需給（予測）のポイント

大麦の供給面では、これまでの天候が順調に推移したことなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、生産の拡大ととうもろこし価格の高騰の影響を受け、飼料用需要の回復が見られ、消費量の増加も見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われると見込まれる。

【生産量】

生産量は、これまでの天候が比較的良好に推移したことから、昨年の干ばつや天候不順による単収低下も回復し、EU、ロシア、ウクライナ等の主要生産国で増産が見込まれ、世界全体では前年度より20.8百万トン増加（15.7%）し、153.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン下方修正されており、国別には主要国以外の国が下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、ロシア、カナダ等主要消費国で増加が見込まれ、世界全体では前年度より10.0百万トン増加（7.5%）し、143.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.2百万トン下方修正されており、国別にはロシア、米国が下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、3.6百万トン増加（23.3%）し、19.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では生産の回復が見込まれているウクライナ、ロシア等で輸出量の増加が見込まれているが、カナダ、カザフスタン等で減少が見込まれている。輸入国では、シリア等で輸入量の増加が見込まれるが、サウジアラビアで減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は輸出量がわずかに下方修正されたが、主要国には変動がなかった。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、EU、ロシア等で積み増しされ、世界全体では前年度より9.9百万トン増加（49.2%）し、30.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は20.9%（5.9ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、米国が上方修正された。

表－1 世界の大麦需給

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	136.5	133.0	153.8	▲ 0.7	15.7
EU-27	56.2	57.7	65.5	-	13.4
ロシア	18.1	15.7	23.1	-	47.6
カナダ	9.6	11.0	11.8	-	7.2
ウクライナ	11.4	6.0	12.6	-	110.0
オーストラリア	4.3	7.2	7.0	-	▲ 2.7
トルコ	7.5	6.0	5.6	-	▲ 6.7
米国	3.9	4.6	5.2	-	14.0
消費量	143.9	133.9	143.9	▲ 1.2	7.5
うち飼料用	99.0	90.8	98.9	▲ 0.6	8.9
EU-27	55.7	54.3	57.5	-	5.9
ロシア	16.4	15.1	17.4	▲ 0.5	15.6
カナダ	10.2	7.9	9.4	-	18.7
トルコ	7.3	6.5	6.0	-	▲ 7.7
サウジアラビア	6.8	7.0	7.0	-	0.0
ウクライナ	6.5	5.3	5.8	-	9.4
米国	4.6	4.4	5.1	▲ 0.1	16.9
貿易量	15.3	15.6	19.2	▲ 0.0	23.3
(輸出)					
EU-27	3.5	3.9	4.0	-	3.7
ウクライナ	5.1	1.0	6.0	-	474.7
オーストラリア	1.9	3.4	3.5	-	3.4
カナダ	1.2	3.0	1.6	-	▲ 47.5
ロシア	1.5	1.0	2.2	-	110.3
カザフスタン	0.6	0.8	0.6	-	▲ 24.2
アルゼンチン	0.5	0.9	0.8	-	▲ 17.7
(輸入)					
サウジアラビア	6.7	7.5	7.1	-	▲ 5.3
日本	1.4	1.4	1.4	-	2.9
中国	1.1	1.1	1.0	-	▲ 8.3
イラン	0.4	0.7	1.7	-	142.9
モロッコ	0.4	0.3	0.4	-	0.6
シリア	0.3	0.2	1.5	-	900.0
チュニジア	0.7	0.5	0.7	-	40.0
期末在庫量	21.1	20.2	30.1	0.7	49.2
EU-27	5.8	5.7	9.9	-	72.9
米国	1.5	1.5	1.9	0.1	30.1
オーストラリア	1.3	2.0	1.6	-	▲ 20.1
サウジアラビア	2.5	2.9	3.0	-	3.1
ロシア	1.2	1.0	4.7	0.5	387.0
カナダ	1.5	1.6	2.4	-	56.1
ウクライナ	1.0	0.7	1.5	-	124.1
期末在庫率	14.7%	15.1%	20.9%	0.6	5.9

資料：USDA 「Grain : World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 大麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる影響から単収はやや回復するものの、収穫面積が減少するため、生産量は前年度より0.2百万トン減少(▲2.7%)し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の増加の影響を受け、前年度より0.7百万トン増加(23.8%)し、3.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加(3.4%)し、3.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン減少(▲20.1%)し、1.6百万トンとなる見込みである。また、期末在庫率は21.5%(9.0ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

大麦の収穫は11月から12月頃終了した。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積が小麦と大豆の作付拡大の影響を受けて減少するものの、単収が前年度より上昇することから、前年度より0.8百万トン増加(7.2%)し、11.8百万トンとなると見込まれている。

消費量は、飼料用大麦の消費量が1.4百万トン増加(20.5%)することなどを受け、消費量全体は前年度より1.5百万トン増加(18.7%)し、9.4百万トンとなる見込みである。

飼料用大麦の輸出が減少することにより、輸出量は前年度より1.4百万トン減少(▲47.5%)し、1.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.8百万トン増加(56.1%)し2.4百万トンとなり、期末在庫率は22.3%(8.0ポイント増)と見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】 大麦の収穫は9月頃終了した。

我が国の輸入先国シェア 1位 (2007年数量ベース44.5%)
世界の生産量シェア 5位 (2008/09年度 4.6%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度18.2%)

表-2 オーストラリアの大麦需給 (市場年度: 11月~翌年10月)

(単位: 百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値 (ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	4.3	7.2	7.0 (6.8)	-	▲ 2.7
消費量	3.8	3.2	3.9 (2.5)	-	23.8
うち飼料用	2.9	2.2	2.9 (2.2)	-	31.8
輸出量	1.9	3.4	3.5 (4.3)	-	3.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	-	...
期末在庫量	1.3	2.0	1.6 (...)	-	▲ 20.1
期末在庫率	23.9%	30.5%	21.5% (...)	-	▲ 9.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.18	4.93	4.50 (4.51)	-	▲ 8.7
単収(t/ha)	1.02	1.46	1.56 (1.51)	-	6.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース21.9%)
世界の生産量シェア 4位 (2008/09年度 7.7%)
輸出量シェア 5位 (2008/09年度 8.3%)

表-3 カナダの大麦需給 (市場年度: 8月~翌年7月)

(単位: 百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値 (AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)
生産量	9.6	11.0	11.8 (11.8)	-	7.2
消費量	10.2	7.9	9.4 (8.8)	-	18.7
うち飼料用	8.8	6.6	8.0 (8.3)	-	20.5
輸出量	1.2	3.0	1.6 (2.5)	-	▲ 47.5
輸入量	0.0	0.1	0.1 (0.0)	-	81.8
期末在庫量	1.5	1.6	2.4 (2.1)	-	56.1
期末在庫率	13.1%	14.3%	22.3% (18.6%)	-	8.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	3.22	4.00	3.50 (3.5)	-	▲ 12.5
単収(t/ha)	2.97	2.75	3.37 (3.4)	-	22.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC 「Grains and Oilseeds Outlook (March 6, 2009)」

ウ 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より0.6百万トン増加（14.0%）増加し、5.2百万トンとなる見込みである。

消費量は前年度より0.7百万トン増加（16.9%）し、5.1百万トンとなる見込みである。飼料用の消費は0.7百万トン増加（100.4%）している。

輸出量は、前年度より0.6百万トン減少（▲66.2%）し、0.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より0.4百万トン増加（30.1%）して1.9百万トンとなり、期末在庫率は35.6%（7.5ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂は、飼料用消費量の下方修正により消費量が0.1万トン下方修正された。また、輸出量がわずかに下方修正された。この結果、期末在庫量が0.1百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の米国の大麦の収穫は9月頃終了した。

また、作柄については、優良が8%と前年度最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

2009/10年度の大麦については、ノースダコタ州で、水につかったほ場があること等のため、作付率は9%と（平年より11ポイント）遅れている。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2007年数量ベース32.1%）
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 3.4%）〕

表－4 米国の大麦需給（市場年度：6月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.9	4.6	5.2	-	14.0
消費量	4.6	4.4	5.1	▲ 0.1	16.9
うち飼料用	1.1	0.7	1.4	▲ 0.1	100.4
輸 出 量	0.4	0.9	0.3	▲ 0.0	▲ 66.2
輸 入 量	0.3	0.7	0.7	-	▲ 5.1
期末在庫量	1.5	1.5	1.9	0.1	30.1
期末在庫率	29.8%	28.1%	35.6%	3.2	7.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.19	1.42	1.52	-	7.0
単収(t/ha)	3.29	3.23	3.42	-	5.9

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大麦の進捗状況及び作柄

〔生育進捗状況（2009/10年度 主要5州）

作付率 9%（平年比：▲12p、前年比：▲11p）

〔作柄（主要5州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大麦	2008/09	8	44	34	10	4
	前年度同時期	9	53	21	9	8
	前年度最終	9	53	21	9	8

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」

作柄は8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことによる作付面積の増大および天候に恵まれたことによる単収の増加を受け、前年度より7.8百万トン増加(13.4%)し、65.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の消費増大により、前年度より3.2百万トン増加(5.9%)し、57.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン増加(3.7%)し、4.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は前年度より4.2百万トン増加(72.9%)し9.9百万トンとなり、期末在庫率は16.1%(6.2ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

EUにおける2008/09年度の大麦の収穫は9月頃終了した。生育期に良好な天候に恵まれたフランスでは高品質の大麦が、多く収穫された。

2009/10年度の大麦に関し、この冬は降水量が平年よりも少なかったものの、今後の降雨があれば問題ない範囲であり、大麦の生育は懸念されていない。引き続き、天候に注視が必要である。

【貿易情報】穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、収穫面積は横ばいであるものの、良好な天候によって干ばつ被害のあった前年度から単収が大幅に改善することを受け、前年度より6.6百万トン増加(110.0%)し、12.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加(9.4%)し、5.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より5.0百万トン増加(474.7%)し、6.0百万トンとなる見込みである。前年度の落ち込みから、2年度前を超える水準にまで改善している。

輸出量の大幅な増加があるものの、生産量も大幅に増加しているため、期末在庫量は前年度より0.8百万トン増加(124.1%)し1.5百万トンとなり、期末在庫率は12.6%(2.1ポイント増)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナにおける2008/09年度の大麦の収穫は8月頃終了した。

2009/10年度の冬大麦は、生育状況はおおむね良好である。

2009/10年度の春大麦の作付は順調に進み、作付面積は市場の高価格を反映して昨年より増加する見込みである。

【貿易情報】

輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

世界の生産量シェア 1位 (2008/09年度42.6%)
輸出量シェア 2位 (2008/09年度20.8%)

表-5 EU-27の大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	56.2	57.7	65.5 (65.5)	-	13.4
消費量	55.7	54.3	57.5 (55.0)	-	5.9
うち飼料用	38.7	37.8	40.5 (41.9)	-	7.1
輸出量	3.5	3.9	4.0 (7.2)	-	3.7
輸入量	0.2	0.3	0.2 (0.5)	-	▲41.0
期末在庫量	5.8	5.7	9.9 (8.8)	-	72.9
期末在庫率	9.8%	9.8%	16.1% (14.2%)	-	6.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	13.8	13.8	14.7 (…)	-	6.1
単収(t/ha)	4.06	4.18	4.46 (…)	-	6.7

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

世界の生産量シェア 3位 (2008/09年度 8.2%)
輸出量シェア 1位 (2008/09年度31.2%)

表-6 ウクライナの大麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.4	6.0	12.6 (12.6)	-	110.0
消費量	6.5	5.3	5.8 (6.3)	-	9.4
うち飼料用	4.8	3.6	4.1 (4.9)	-	13.9
輸出量	5.1	1.0	6.0 (6.4)	-	474.7
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	▲49.0
期末在庫量	1.0	0.7	1.5 (0.7)	-	124.1
期末在庫率	8.3%	10.5%	12.6% (5.4%)	-	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.20	4.10	4.15 (…)	-	1.2
単収(t/ha)	2.18	1.46	3.04 (…)	-	108.2

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

カ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、前年度より7.4百万トン増加（47.6%）し、23.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用大麦の消費量が増えたことなどから、全体で前年度より2.3百万トン増加（15.6%）し、17.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加を受け、前年度より1.2百万トン増加（110.3%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

期末在庫量は、3.7百万トン増加（387.0%）し4.7百万トンとなり、期末在庫率は23.8%（17.8ポイント増）となる見込みである。

前月の予測からの改訂は、飼料用需要の減少から、消費量が0.5百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシアにおける2008/09年度の大麦の収穫は9月頃終了した。2009/10年度の冬大麦の生育は天候が望ましく推移したため、ほとんどの地域で越冬条件は良好であった。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア 2位（2007/08年度15.0%）
輸出量シェア 4位（2008/09年度11.4%））

表-7 ロシアの大麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	18.1	15.7	23.1 (23.1)	-	47.6	
消費量	16.4	15.1	17.4 (17.8)	▲ 0.5	15.6	
うち飼料用	11.8	10.5	12.3 (12.5)	▲ 0.5	17.7	
輸 出 量	1.5	1.0	2.2 (2.3)	-	110.3	
輸 入 量	0.2	0.2	0.2 (0.2)	-	13.6	
期末在庫量	1.2	1.0	4.7 (5.4)	0.5	387.0	
期末在庫率	6.8%	5.9%	23.8% (27.0%)	3.1	17.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	10.00	9.80	9.70 (...)	-	▲ 1.0	
単収(t/ha)	1.81	1.60	2.38 (...)	-	48.8	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

5 ソルガム

(1) 国際的なソルガム需給の概要

○2008/09年度のソルガム需給（予測）のポイント

ソルガムの供給面では、インドや米国等で減少することから世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、米国等で増加するものの、EU等で前年度に急増した飼料用需要が小麦の生産回復により減少することから、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を下回ることから減少し、期末在庫率も低下すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、ナイジェリア等で増加するものの、インドや主要な生産・輸出国である米国等で減少することから世界全体では前年度より0.9百万トン減少（▲1.3%）し、62.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で1.3百万トン下方修正されており、国別にはエチオピア、アルゼンチンが下方修正され、メキシコが上方修正された。

【消費量】

消費量は、米国等で増加するものの、EU等で前年度に飼料用小麦の代替として急増した需要が小麦等の生産回復により減少することから、世界全体では前年度より0.5百万トン減少（▲0.8%）し、62.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン下方修正されており、国別にはエチオピア等が下方修正され、メキシコが上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より4.7百万トン減少（▲49.5%）し、4.9百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国では貿易量の約7割を占める米国で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、EUで飼料用需要の減少から輸入量の減少が、メキシコ等で増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチン、中国の輸出力が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を下回ることから世界全体では前年度より0.3百万トン減少（▲4.7%）し、4.3百万トンとなり、期末在庫率は6.9%（0.3ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.5百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチンが下方修正され、エチオピアが上方修正された。

表－1 世界のソルガム需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.3	63.3	62.4	▲ 1.3	▲ 1.3
米国	7.0	12.6	12.0	-	▲ 5.0
ナイジェリア	10.5	10.0	11.0	-	10.0
インド	7.2	7.9	7.2	-	▲ 8.7
メキシコ	5.8	6.2	6.3	0.1	1.6
スーダン	5.2	4.5	4.7	-	4.4
アルゼンチン	2.8	2.9	2.3	▲ 0.7	▲ 21.8
エチオピア	2.3	2.7	2.6	▲ 0.7	▲ 1.5
消費量	56.0	63.1	62.6	▲ 0.7	▲ 0.8
うち飼料用	22.0	28.9	26.0	▲ 0.3	▲ 10.1
ナイジェリア	10.5	10.0	11.0	-	10.1
メキシコ	8.1	7.2	8.4	0.1	16.7
インド	7.1	7.9	7.2	▲ 0.1	▲ 8.9
米国	4.0	5.1	8.4	-	65.7
スーダン	5.0	5.2	5.0	-	▲ 4.3
エチオピア	2.3	2.6	2.7	▲ 0.6	3.8
EU-27	1.3	6.1	1.1	-	▲ 82.0
貿易量	5.5	9.6	4.9	▲ 0.1	▲ 49.5
(輸出)					
米国	3.9	7.1	3.3	-	▲ 53.2
アルゼンチン	1.1	1.2	0.5	▲ 0.1	▲ 56.9
オーストラリア	0.1	0.8	0.6	-	▲ 20.0
ブラジル	0.1	0.1	0.2	-	75.4
中国	0.1	0.2	0.1	▲ 0.1	▲ 55.2
ナイジェリア	0.1	0.1	0.1	-	0.0
インド	0.0	0.1	0.0	-	▲ 73.4
(輸入)					
EU-27	0.7	5.8	0.4	-	▲ 93.1
メキシコ	2.0	1.2	2.3	-	99.0
日本	1.3	1.1	1.4	-	24.5
スーダン	0.3	0.3	0.3	-	▲ 1.3
チリ	0.2	0.3	0.2	-	▲ 50.0
イスラエル	0.1	0.2	0.1	-	▲ 33.3
ニジェール	0.1	0.1	0.1	-	0.0
期末在庫量	4.4	4.6	4.3	▲ 0.5	▲ 4.7
米国	0.8	1.3	1.7	-	23.6
スーダン	1.0	0.5	0.5	-	▲ 0.9
エチオピア	0.2	0.2	0.2	0.0	8.2
アルゼンチン	0.2	0.2	0.3	▲ 0.3	62.5
メキシコ	0.2	0.4	0.6	-	53.6
ナイジェリア	0.2	0.2	0.2	-	0.0
インド	0.1	0.1	0.1	-	0.0
期末在庫率	7.9%	7.2%	6.9%	▲ 0.7	▲ 0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) ソルガムの主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、収穫面積は増加するものの、単収の減少から前年度より0.6百万トン減少（▲5.0%）し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用とうもろこしの価格高騰に伴い、ソルガムの飼料用需要の増加が見込まれることやエタノール原料用需要の増加から前年度より3.3百万トン増加（65.7%）し、8.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少とEUの輸入量の減少から前年度より3.8百万トン減少（▲53.2%）し、3.3百万トンとなる見込みである。

この結果、生産量が消費量と輸出量を上回ることから期末在庫量は前年度より

0.4百万トン増加（23.6%）し、1.7百万トンとなり、期末在庫率は14.2%（3.1ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

米国のソルガムの収穫は12月頃に終了した。

作柄については、優良が9%と前年度の最終の15%に比べ低く、優良～普通までの合計でも86%と前年度の最終の91%を下回っている。

なお、2009/10年度については、ソルガムの主要11州の作付進捗率は4月19日現在で26%となっており、過去5年の平均並み（前年度に比べ2ポイント遅い）となっている。最大の生産州のカンザス州ではまだ始まっておらず、南部のテキサス州で59%と過去5年の平均より4ポイント進捗が進んでいる。

（我が国の輸入先国シェア1位（2008年数量ベース 46.5%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度 19.2%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度 68.1%）

表-2 米国のソルガム需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	7.0	12.6	12.0	-	▲ 5.0
消費量	4.0	5.1	8.4	-	65.7
うち飼料用	2.9	4.2	5.6	-	34.1
輸出量	3.9	7.1	3.3	-	▲ 53.2
輸入量	0.0	0.0	0.0	-	200.0
期末在庫量	0.8	1.3	1.7	-	23.6
期末在庫率	10.3%	11.1%	14.2%	-	3.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	2.00	2.75	2.94	-	6.9
単収(t/ha)	3.52	4.60	4.08	-	▲ 11.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国ソルガムの生育進捗状況（4月19日現在）及び作柄

[生育進捗状況（2009/10年度ソルガム）]

作付率 26%（平年差：±0 p、前年差：▲2 p）

[作柄]

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
ソルガム	2008/09	9	44	33	11	3
	前年度同時期
	前年度最終	15	49	27	7	2

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、作柄については2008年11月2日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、干ばつの影響による単収の減少から前年度より0.6百万トン減少（▲21.8%）し、2.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.1百万トン減少（▲5.6%）し、1.7百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン減少（▲56.9%）し、0.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、生産量が消費量と輸出量を上回ることから前年度より0.1百万トン増加（62.5%）し、0.3百万トンとなり、期末在庫率も11.8%（6.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、3月のほとんどの期間が高温・乾燥天候で推移したため、単収がさらに下方修正され生産量が0.7百万トン下方修正された。飼料用消費量が生産量の減少から0.4百万トン下方修正され、輸出量も0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.3百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

アルゼンチンの2008/09年度のソルガムの収穫はエントレリオス州、サンタフェ州で始まっている。4月16日現在の収穫進捗率は24%となっている。主要産地のサンタフェ州、コルドバ州、エントレリオス州などでは1月から2月上旬と3月にかけて高温と干ばつの影響を強く受け、生育が阻害された。サンタフェ州などでは収穫されず、すでに牧草として刈り取られたほ場もある。なお、1月26日に主要産地において非常事態が宣言されている。

ウ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候を反映して単収が増加するものの、収穫面積が減少することから前年度より0.1百万トン減少（▲6.2%）し、1.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.4%）し、2.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.1百万トン減少（▲55.2%）し、0.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.4百万トン減少（▲81.9%）し、0.1百万トンとなり、期末在庫率も4.3%（18.8ポイント減）と大幅に低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、消費量と期末在庫量について2002/03年度からの統計値が修正された。2008/09年度の実績が収穫面積の減少から0.2百万トン下方修正された。消費量が、飼料用需要は減少したものの、アルコール向け需要が増加したことから0.4百万トン上方修正された。輸出量が0.1百万トン下方修正され、輸入量はわずかに上方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに下方修正された。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取り消し、輸出税を課していたが、12月1日からは、輸出税は撤廃されている。

（世界の輸出量シェア 3位（2008/09年度 10.3%））

表-3 アルゼンチンのソルガム需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.8	2.9	2.3 (4.3)	▲0.7	▲21.8
消費量	1.7	1.8	1.7 (3.4)	▲0.4	▲5.6
うち飼料用	1.5	1.6	1.5 (3.1)	▲0.4	▲6.3
輸出量	1.1	1.2	0.5 (0.8)	▲0.1	▲56.9
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
期末在庫量	0.2	0.2	0.3 (0.3)	▲0.3	62.5
期末在庫率	6.5%	5.4%	11.8% (7.3%)	▲7.4	6.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.62	0.71	0.70 (...)	-	▲1.4
単収(t/ha)	4.52	4.14	3.29 (...)	▲1.00	▲20.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (26 March 2009)」

（我が国の輸入先国シェア3位（2008年数量ベース 10.3%））
（世界の輸出量シェア5位（2008/09年度 2.1%））

表-4 中国のソルガム需給
（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	2.2	1.9	1.8 (2.0)	▲0.2	▲6.2
消費量	2.1	2.1	2.2 (...)	0.4	2.4
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (...)	▲0.1	▲50.0
輸出量	0.1	0.2	0.1 (0.1)	▲0.1	▲55.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (...)	0.0	...
期末在庫量	0.9	0.5	0.1 (...)	▲0.0	▲81.9
期末在庫率	42.3%	23.1%	4.3% (...)	▲2.7	▲18.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	0.73	0.50	0.45 (...)	▲0.05	▲10.0
単収(t/ha)	2.98	3.84	4.00 (...)	-	4.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (26 March 2009)」

エ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、収穫面積が2007/08年度大幅に増加したものの、利用可能な休閑地の減少、飼料穀物価格の低下などにより前年度より0.7百万トン減少（▲21.9%）し、2.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.3百万トン減少（▲11.6%）し、1.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少から前年度より0.2百万トン減少（▲20.0%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.1百万トン減少（▲57.4%）し、0.1百万トンとなり、期末在庫率も3.1%（3.2ポイント減）となる見込みである。

なお、前月の予測から改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのソルガムの収穫は、2月頃から始まり、6月頃に終了する予定である。1月には比較的高温で乾燥天候だったものの、10～12月と2月に主要産地のクイーンズランド州南部とニューサウスウェールズ州北部で平年以上の降雨に恵まれたために作柄は良好である。

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、収穫面積及び単収の減少が見込まれることから、前年度より0.7百万トン減少（▲8.7%）し、7.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、生産量の減少に伴い、前年度より0.7百万トン減少（▲8.9%）し、7.2百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの0.2百万トンとなり、期末在庫率も2.7%（0.5ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸出量が0.1百万トン上方修正されたことから2008/09年度の期首在庫量が下方修正された。消費量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのラビ（春夏）期のソルガムは、主要産地のマハラシュトラ州、カルナタカ州でサトウキビから作付けがシフトしており、これらの地域での生育は順調である。3月頃から収穫が始まっている。

（我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 35.4%）
世界の輸出量シェア 2位（2008/09年度 12.4%）

表－5 オーストラリアのソルガム需給
（市場年度：翌年3月～翌々年2月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値 (ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	1.3	3.1	2.4 (2.1)	-	▲ 21.9	
消費量	1.2	2.2	1.9 (1.5)	-	▲ 11.6	
うち飼料用	1.2	2.2	1.9 (1.5)	-	▲ 11.6	
輸出量	0.1	0.8	0.6 (0.6)	-	▲ 20.0	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…	
期末在庫量	0.0	0.2	0.1 (…)	-	▲ 57.4	
期末在庫率	1.2%	6.3%	3.1% (…)	-	▲ 3.2	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	0.61	1.03	0.80 (0.72)	-	▲ 22.3	
単収 (t/ha)	2.09	2.99	3.00 (2.93)	-	0.3	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (17 February 2009)」

（世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 11.6%）

表－6 インドのソルガム需給（市場年度：11月～翌年10月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値 (IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生産量	7.2	7.9	7.2 (7.2)	-	▲ 8.7	
消費量	7.1	7.9	7.2 (…)	▲ 0.1	▲ 8.9	
うち飼料用	1.2	1.5	1.2 (…)	-	▲ 20.0	
輸出量	0.0	0.1	0.0 (…)	-	▲ 73.4	
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	-	…	
期末在庫量	0.2	0.2	0.2 (…)	0.0	8.2	
期末在庫率	3.5%	2.3%	2.7% (…)	0.3	0.5	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	8.51	7.93	7.50 (…)	-	▲ 5.4	
単収 (t/ha)	0.84	1.00	0.97 (…)	-	▲ 3.0	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (26 March 2009)」

6 米

(1) 国際的な米需給の概要

○2008/09年度の米需給（予測）のポイント

米の供給面では、中国、インド、バングラデシュ等で増産される見込みであり、世界の生産量も増加が見込まれている。

需要面では、中国、インド、インドネシア等で消費量が拡大し、世界の消費量も増加が見込まれている。

期末在庫量については、昨年引き続き生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、中国、インド、バングラデシュ等で増加し、世界全体では前年度より9.2百万トン増加（2.1%）し、441.1百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正され、国別にはベトナムで上方修正され、フィリピンで下方修正された。

【消費量】

消費量は、中国、インド、インドネシア等で増加し、世界全体では前年度より5.2百万トン増加（1.2%）し、433.5百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正され、国別にはベトナムで上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より1.5百万トン減少（▲4.9%）し、29.3百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではインド、タイ等で輸出量の減少が、パキスタン、ベトナム等で輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国ではイラン、サウジアラビア等で輸入量の増加が、EU、フィリピン等で減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で積み増しされ、世界全体では前年度より7.6百万トン増加（9.7%）し、86.1百万トンとなる見込みであり、期末在庫率は19.9%まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.1百万トン上方修正され、国別には、ベトナム等で上方修正され、日本、フィリピンで下方修正された。

表-1 世界の米需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	420.4	431.9	441.1	0.2	2.1
中国	127.2	130.2	135.1	-	3.7
インド	93.4	96.7	98.9	-	2.3
インドネシア	35.3	35.8	36.3	-	1.3
バングラデシュ	29.0	28.8	29.7	-	3.1
ベトナム	22.9	24.4	23.8	0.3	▲2.5
タイ	18.3	19.3	19.4	-	0.5
フィリピン	9.8	10.5	10.6	▲0.1	1.1
消費量	421.2	428.3	433.5	0.1	1.2
中国	127.2	127.5	130.5	-	2.4
インド	86.9	90.6	92.4	-	2.0
インドネシア	35.9	36.4	36.9	-	1.4
バングラデシュ	29.8	30.7	30.8	-	0.2
ベトナム	18.8	19.4	19.2	0.1	▲1.3
フィリピン	12.0	13.5	13.2	-	▲2.6
ミャンマー	10.7	10.2	9.7	-	▲5.4
貿易量	31.3	30.8	29.3	-	▲4.9
(輸出)					
タイ	9.6	10.0	9.0	-	▲10.1
ベトナム	4.5	4.7	5.2	-	11.8
パキスタン	2.8	3.0	4.0	-	33.3
米国	2.9	3.5	3.0	-	▲12.8
インド	5.5	4.5	2.5	-	▲44.4
中国	1.3	1.0	1.3	-	34.0
エジプト	1.2	0.5	0.8	-	77.8
(輸入)					
フィリピン	1.8	2.7	2.0	-	▲25.9
ナイジェリア	1.6	1.6	1.6	-	3.2
EU-27	1.3	1.6	1.1	-	▲33.1
サウジアラビア	1.0	1.0	1.4	-	41.5
イラン	1.1	1.1	1.4	-	27.3
イラク	0.6	1.0	1.0	-	2.6
マレーシア	0.9	0.8	1.0	-	27.7
期末在庫量	74.9	78.5	86.1	0.1	9.7
中国	35.9	38.0	41.6	0.0	9.5
インド	11.4	13.0	17.0	-	30.8
フィリピン	4.9	4.5	4.0	▲0.1	▲12.2
インドネシア	4.6	4.4	4.6	0.0	4.5
日本	2.4	2.6	2.7	▲0.2	6.2
タイ	2.5	2.2	3.1	0.0	41.1
ベトナム	1.4	2.0	1.8	0.3	▲8.7
期末在庫率	17.8%	18.3%	19.9%	0.0	1.5

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「PS&D」

(2) 米の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 中国

【需給状況】

中国の生産量は、収穫面積の拡大と単収の増加が見込まれており、前年度より4.9百万トン増加（3.7%）し、135.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より3.0百万トン増加（2.4%）し、130.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の拡大などから、0.3百万トン増加（34.0%）し、1.3百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は3.6百万トン増加（9.5%）し、41.6百万トンとなり期末在庫率も31.6%（2.0ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸入量、輸出量が、それぞれ上方修正されたことから、2008/09年度の期首在庫が上方修正された。この結果、期末在庫量もわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

中国の米については、12月頃収穫は終了している。

【貿易情報】

中国については、2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている（5%→3%）。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

イ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.2百万トン増加（2.3%）し、98.9百万トンとなる見込みである。2008/09年度の米の合計作付面積（カリフ米とラビ米の合計）は、昨年度をわずかに上回る見込みである。これは主に米価格が有利なため、特に最低保障価格と稲作強化制度（SRI）によるところが大きい。

消費量は、引き続き増加傾向にあり前年度より1.8百万トン増加（2.0%）し、92.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、2.0百万トン減少（▲44.4%）し、2.5万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は4.0百万トン増加（30.8%）し、17.0百万トンとなり期末在庫率も17.9%（4.2ポイント増）に上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インド農務省の推定（2009年2月12日現在）によると2008/09年度の米の合計生産量は前年より増加し98.9百万トンとなっている。このうち、カリフ米が前年よりも約2.8百万トン増加し85.5百万トン、ラビ米が0.6百万トン減少し13.4百万トンとなっている。ラビ米については作付面積が微増したものの、一部の地域で、降水量が少ないなど天候に恵まれなかったこともあり、生産量が減少すると見込まれている。

【貿易情報】

インドについては、非バスマティ米の輸出が禁止されており、現在も継続しているが、種子用の非バスマティ米に限り輸出禁止が2008年9月に解除された。また、バスマティ米に輸出税を課していたが、2009年1月19日に撤廃された。

（世界の生産量シェア 1位（2008/09年度30.6%）
輸出量シェア 6位（2008/09年度 4.4%））

表－2 中国の米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	127.2	130.2	135.1 (130.7)	-	3.7
消費量	127.2	127.5	130.5 (126.6)	-	2.4
輸出量	1.3	1.0	1.3 (1.5)	-	34.0
輸入量	0.5	0.3	0.3 (1.0)	-	10.0
期末在庫量	35.9	38.0	41.6 (61.7)	0.0	9.5
期末在庫率	27.9%	29.6%	31.6% (48.2%)	0.0	2.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.94	28.92	29.20 (…)	-	1.0
単収(t/ha)	6.28	6.43	6.61 (…)	-	2.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

（世界の生産量シェア 2位（2008/09年度22.4%）
輸出量シェア 5位（2008/09年度 8.5%））

表－3 インドの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	93.4	96.7	98.9 (98.0)	-	2.3
消費量	86.9	90.6	92.4 (92.3)	-	2.0
輸出量	5.5	4.5	2.5 (4.3)	-	▲44.4
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	…
期末在庫量	11.4	13.0	17.0 (18.0)	-	30.8
期末在庫率	12.4%	13.7%	17.9% (18.6%)	-	4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	44.00	43.77	44.00 (…)	-	0.5
単収(t/ha)	3.18	3.31	3.37 (…)	-	1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

ウ インドネシア

【需給状況】

インドネシアの生産量は、良好な天候による単収の増加が見込まれており、前年度より0.5百万トン増加（1.3%）し、36.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.5百万トン増加（1.4%）し、36.9百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.4百万トン増加（128.6%）し、0.8百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.2百万トン増加（4.5%）し、4.6百万トンとなり、期末在庫率も12.5%（0.4ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の消費量、輸入量が、それぞれ下方修正されたことから、2008/09年度の期首在庫が上方修正された。この結果、期末在庫量もわずかに上方修正された。

【貿易情報】

インドネシアについては、米の純輸入国であり主要な輸出国ではないが、2008年4月11日から輸出を禁止している。

エ タイ

【需給状況】

タイの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.1百万トン増加（0.5%）し、19.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン減少（▲1.0%）し、9.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、アジア、アフリカ等からの強い需要が見込まれていた前年度から1.0百万トン減少（▲10.1%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.9百万トン増加（41.1%）し、3.1百万トンとなり期末在庫率も16.8%（5.6ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の輸出量が下方修正されたことから、2008/09年度の期首在庫が上方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

農業協同組合省米局の米情勢報告によると、2008/09年度雨季作米の作付面積は9.3百万haと見込まれており、収穫がほぼ終了している。2009/10年度の乾季作米の作付け面積は、価格低下による作付面積の減少により約1.9百万ha（前年度2.0百万ha）と予想されており、生育ステージは、約12%が播種期、29%が分けつ期となっており、さらに約39%が出穂期、20%が収穫期に入っている。

〔世界の生産量シェア 3位（2008/09年度 8.2%）〕

表－4 インドネシアの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	35.3	35.8	36.3 (37.7)	-	1.3
消費量	35.9	36.4	36.9 (37.6)	-	1.4
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	...
輸入量	2.0	0.4	0.8 (0.3)	-	128.6
期末在庫量	4.6	4.4	4.6 (3.2)	0.0	4.5
期末在庫率	12.8%	12.1%	12.5% (8.5%)	0.1	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	11.90	11.90	11.90 (...)	-	0.0
単収(t/ha)	4.60	4.66	4.72 (...)	-	1.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

〔世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 4.4%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度30.7%）〕

表－5 タイの米需給（市場年度：翌年1月～翌年12月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	18.3	19.3	19.4 (21.5)	-	0.5
消費量	9.8	9.6	9.5 (12.0)	-	▲ 1.0
輸出量	9.6	10.0	9.0 (8.5)	-	▲ 10.1
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	-	0.0
期末在庫量	2.5	2.2	3.1 (5.0)	0.0	41.1
期末在庫率	13.0%	11.3%	16.8% (24.4%)	0.0	5.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	10.27	10.60	10.68 (11.3)	▲ 0.02	0.8
単収(t/ha)	2.69	2.76	2.75 (2.88)	-	▲ 0.4

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、 「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

オ ベトナム

【需給状況】

ベトナムの生産量は、単収が過去最高を記録した昨年度より低下すると見込まれることから前年度より0.6百万トン減少（▲2.5%）し、23.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.2百万トン減少（▲1.3%）し、19.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、高い生産が維持されること、ベトナム産がタイ産よりも価格競争力に勝ることから前年より0.5百万トン増加（11.8%）し、5.2百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は0.1百万トン増加（33.3%）し、0.4百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.2百万トン減少（▲8.8%）し、1.8百万トンとなり、期末在庫率も7.6%（0.8ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.3百万トン、消費量が0.1百万トン、輸入量が0.1百万トン、それぞれ上方修正された。この結果、期末在庫量が0.3百万トン上方修正された。

【貿易情報】

ベトナムについては、政府契約以外の輸出業者による新規輸出契約を停止していたが、2008年6月13日からこれを解除した。また、8月15日からは、一定基準の輸出価格を超えた場合に輸出税が賦課されていたが、12月19日に課税が停止された。

カ フィリピン

【需給状況】

フィリピンの生産量は、収穫面積の拡大が見込まれており、前年度より0.1百万トン増加（1.1%）し、10.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.3百万トン減少（▲2.6%）し、13.2百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より0.7百万トン減少（▲25.9%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲12.2%）し、4.0百万トンとなり、期末在庫率も30.3%（3.3ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量が0.1百万トン下方修正されたことにより期末在庫量が0.1百万トン下方修正された。

（世界の生産量シェア 5位（2008/09年度 5.4%）
輸出量シェア 2位（2008/09年度17.7%））

表-6 ベトナムの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	22.9	24.4	23.8 (25.1)	0.3	▲ 2.5
消費量	18.8	19.4	19.2 (20.4)	0.1	▲ 1.3
輸出量	4.5	4.7	5.2 (4.5)	-	11.8
輸入量	0.5	0.3	0.4 (0.2)	0.1	33.3
期末在庫量	1.4	2.0	1.8 (4.8)	0.3	▲ 8.8
期末在庫率	6.0%	8.4%	7.6% (19.3%)	1.1	▲ 0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	7.20	7.41	7.31 (…)	0.02	▲ 1.3
単収(t/ha)	4.82	4.98	4.93 (…)	0.05	▲ 1.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

（世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 2.4%）
輸入量シェア 1位（2008/09年度 6.8%））

表-7 フィリピンの米需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(FAO)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.8	10.5	10.6 (11.1)	▲ 0.1	1.1
消費量	12.0	13.5	13.2 (12.9)	-	▲ 2.6
輸出量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
輸入量	1.8	2.7	2.0 (1.8)	-	▲ 25.9
期末在庫量	4.9	4.5	4.0 (2.2)	▲ 0.1	▲ 12.2
期末在庫率	40.6%	33.7%	30.3% (17.1%)	▲ 0.4	▲ 3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	4.19	4.35	4.40 (…)	▲ 0.09	1.1
単収(t/ha)	3.70	3.83	3.82 (…)	0.06	▲ 0.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、「PS&D」、
「World Agricultural Production」
FAO 「Food Outlook (Nov 2008)」

II 油糧種子

1 2008/09年度の国際的な油糧種子需給の概要

○2008/09年度の油糧種子需給（予測）のポイント

2008/09年度の油糧種子需給は、中国、EU等のなたねの増産などにより油糧種子全体の生産量は増加するものの、中国での食用油需要やEU等でのバイオディーゼル用需要が拡大する中、消費量が生産量を上回ると見込まれる。

また、期末在庫量は取り崩されることから、油糧種子全体の需給は引き締まるものと見込まれる。

【生産量】

世界の油糧種子全体の生産量は、なたね、ひまわり種等の増加から前年度より12.0百万トン増加（3.1%）し、403.5百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、米国で作付けが拡大したものの、南米の干ばつなどから生産量が減少し、なたねについては、インド、中国等の作付けの増加や、カナダ、EUの良好な天候を背景に生産量が増加すると見込まれている。

【消費量】

世界の油糧種子全体の消費量は、堅調な搾油需要の拡大などから、前年度より5.6百万トン増加（1.4%）し、405.9百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、中国で搾油需要を中心とした増加が見込まれるものの、米国等で搾油用需要の減少などから消費量が減少し、なたねについては、バイオディーゼル用需要の拡大を背景としたEU、カナダ等の搾油用需要の拡大などから消費量が増加すると見込まれている。

【貿易量】

世界の油糧種子の貿易量は、2.3百万トン減少（▲2.5%）し、90.4百万トンとなる見込みである。

品目別には、大豆については、貿易量の約5割を輸入する中国で豊作から輸入量が減少に転じ、EUも輸入量が減少することなどから、貿易量の減少が見込まれている。一方、なたねについては、バイオディーゼル需要の拡大などを背景に輸入量の増加が見込まれている。

【期末在庫量】

世界の油糧種子全体の期末在庫量は、3.8百万トン減少（▲6.2%）し、58.6百万トンとなる見込みである。また、油糧種子全体の期末在庫率は、期末在庫量が取り崩されることから、14.4%と1.2ポイント低下する見込みである。

品目別には、大豆の期末在庫量は前年度から取り崩されるものの、期末在庫率は2割を上回っており、世界全体としては極度の需給の引き締めりはみられない。なたねの期末在庫量は積み増しされ、期末在庫率は、1割まで回復すると見込まれている。

表－1 世界の油糧種子需給

(単位:百万トン)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	油糧種子計	404.4	391.5	403.5	▲ 4.2	3.1
	うち、大豆	237.4	220.8	218.8	▲ 4.5	▲ 0.9
	なたね	45.2	48.4	57.9	0.4	19.6
	綿花	45.8	46.1	41.8	▲ 0.3	▲ 9.2
	ピーナッツ ひまわり種	30.7 29.8	32.1 27.2	35.0 32.2	0.2 ▲ 0.1	8.9 18.3
消費量	油糧種子計	393.4	400.3	405.9	0.1	1.4
	うち、大豆	225.5	229.8	225.4	▲ 0.3	▲ 1.9
	なたね	46.4	49.0	54.7	0.3	11.6
	綿花	45.8	46.0	42.6	▲ 0.2	▲ 7.6
	ピーナッツ ひまわり種	30.8 29.4	32.0 26.7	34.1 31.6	0.2 0.1	6.8 18.1
うち、 搾油用	油糧種子計	328.7	338.4	341.2	▲ 0.1	0.8
	うち、大豆	195.9	201.7	195.1	▲ 0.3	▲ 3.3
	なたね	43.7	46.6	51.8	0.3	11.1
	綿花	33.7	34.7	32.8	▲ 0.2	▲ 5.5
	ピーナッツ ひまわり種	14.1 26.1	14.9 23.8	16.1 28.0	0.1 ▲ 0.1	7.7 17.5
貿易量	油糧種子計	83.6	92.7	90.4	▲ 0.8	▲ 2.5
	うち、大豆	71.5	79.5	74.1	▲ 0.7	▲ 6.8
	なたね	6.6	8.2	11.1	0.0	35.7
	綿花	0.8	0.8	0.5	▲ 0.1	▲ 36.9
	ピーナッツ ひまわり種	2.4 1.9	2.5 1.4	2.5 1.9	0.0 ▲ 0.0	▲ 1.2 31.5
期末 在庫量	油糧種子計	73.3	62.4	58.6	▲ 4.1	▲ 6.2
	うち、大豆	62.7	53.1	45.8	▲ 4.1	▲ 13.7
	なたね	4.7	3.4	6.4	0.2	87.9
	綿花	1.3	1.2	0.7	▲ 0.0	▲ 46.8
	ピーナッツ ひまわり種	1.3 3.1	1.0 3.4	1.4 3.8	▲ 0.0 ▲ 0.2	41.2 13.4
期末 在庫率	油糧種子計	18.6%	15.6%	14.4%	▲ 1.0	▲ 1.2
	うち、大豆	27.8%	23.1%	20.3%	▲ 1.8	▲ 2.8
	なたね	10.0%	6.9%	11.6%	0.3	4.7
	綿花	2.9%	2.7%	1.6%	▲ 0.0	▲ 1.1
	ピーナッツ ひまわり種	4.2% 10.5%	3.2% 12.5%	4.2% 12.0%	▲ 0.1 ▲ 0.5	1.0 ▲ 0.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS & D」

注：期末在庫率の「前月予測からの変更」と「対前年度増減率」は、前月予測及び前年度とのポイント差である。

【参考】2008/09年度の油糧種子需給予測の主な改訂（主要品目の前月予測と今月予測の差）

前月の予測からの改訂は、生産量はなたねがインドで上方修正されたものの、大豆は干ばつの影響によりアルゼンチンで下方修正され、油糧種子全体で4.2百万トン下方修正されている。また、消費量は大豆が下方修正、なたねが上方修正され、油糧種子全体で0.1百万トン上方修正されている。生産量の下方修正と消費量の上方修正により、期末在庫量は4.1百万トン下方修正された。
 なお、大豆については、生産量が下方修正されたアルゼンチンで輸出量も下方修正されており、世界全体の貿易量も下方修正されている。

○ 大豆

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	▲ 4.5	▲ 0.3	▲ 0.3	▲ 0.7	…	▲ 4.1
米国	-	▲ 0.0	▲ 0.1	0.7	0.1	▲ 0.5
ブラジル	-	0.4	0.4	0.2	-	▲ 0.7
カナダ	-	-	-	-	-	-
中国	-	-	-	-	-	-
アルゼンチン	▲ 4.0	0.0	-	▲ 1.6	▲ 0.2	▲ 2.6

○ なたね

(単位:百万トン)

	生産量	消費量	うち、 搾油用	貿易量		期 末 在庫量
				輸出量	輸入量	
世界計	0.4	0.3	0.3	0.0	…	0.2
カナダ	-	-	-	-	-	-
オーストラリア	-	-	-	-	-	-
EU-27	-	0.2	0.2	▲ 0.1	0.4	0.2
中国	-	-	-	-	-	-
インド	0.4	0.4	0.4	-	-	▲ 0.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：期末在庫量の変更については、2007/08年度の需給データの改訂により、2008/09年度の期首在庫量が修正されたことに伴う場合もある。

2 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要

○2008/09年度の大豆需給（予測）のポイント

大豆の供給面では、昨年度にとうもろこしへの作付転換により縮小した米国の作付けが、大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大するものの、南米が干ばつの影響を受ける見込みであり、世界の生産量は減少が見込まれている。

需要面では、中国等で搾油用需要を中心に拡大するものの、米国等で減少し、世界の消費量は減少が見込まれている。

期末在庫量については、消費量が生産量を上回ることから、期末在庫率は前年度を下回ると見込まれる。

【生産量】

生産量は、世界第1位の生産・輸出国である米国の作付けが拡大するものの、南米のアルゼンチン、ブラジル、パラグアイで減少し、世界全体では前年度より2.0百万トン減少（▲0.9%）し、218.8百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.5百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチン、インド、パラグアイで下方修正された。

【消費量】

消費量は、中国等で搾油需要を中心とした増加が見込まれるものの、米国、EU、アルゼンチンで減少し、世界全体では前年度より4.4百万トン減少（▲1.9%）し、225.4百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン下方修正されており、国別にはEU、インド等で下方修正され、ブラジル等で上方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より5.4百万トン減少（▲6.8%）し、74.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではアルゼンチン、パラグアイ等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、貿易量の約5割を輸入する中国で豊作から輸入量が減少に転じ、EUも輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチン等の輸出量とEU、アルゼンチンの輸入量が下方修正され、米国、ブラジルの輸出量が上方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、消費量が生産量を上回ることから世界全体では前年度より7.3百万トン減少（▲13.7%）し、45.8百万トンとなり、期末在庫率は20.3%（2.8ポイント減）と前年度を下回る見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.1百万トン下方修正されており、国別にはアルゼンチン、ブラジル、米国等で下方修正された。

表－1 世界の大豆需給

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	237.4	220.8	218.8	▲ 4.5	▲ 0.9
米国	87.0	72.9	80.5	-	10.5
ブラジル	59.0	61.0	57.0	-	▲ 6.6
アルゼンチン	48.8	46.2	39.0	▲ 4.0	▲ 15.6
中国	16.0	14.0	16.8	-	20.0
インド	7.7	9.3	9.7	▲ 0.3	4.3
パラグアイ	6.2	6.8	3.9	▲ 0.1	▲ 42.6
カナダ	3.5	2.7	3.3	-	22.2
消費量	225.5	229.8	225.4	▲ 0.3	▲ 1.9
うち搾油用	195.9	201.7	195.1	▲ 0.3	▲ 3.3
中国	46.1	49.8	51.0	-	2.4
米国	53.5	51.6	49.0	▲ 0.0	▲ 4.9
アルゼンチン	35.1	36.2	35.3	0.0	▲ 2.4
ブラジル	34.0	34.9	34.6	0.4	▲ 0.9
EU-27	16.1	16.1	14.0	▲ 0.3	▲ 13.4
インド	7.7	9.2	9.7	▲ 0.3	5.1
日本	4.3	4.2	4.3	-	0.9
貿易量	71.5	79.5	74.1	▲ 0.7	▲ 6.8
(輸出)					
米国	30.4	31.6	32.9	0.7	4.2
ブラジル	23.5	25.4	25.1	0.2	▲ 0.9
アルゼンチン	9.6	13.8	10.1	▲ 1.6	▲ 27.0
パラグアイ	4.5	5.1	2.4	▲ 0.0	▲ 53.7
カナダ	1.7	1.8	1.9	-	7.0
(輸入)					
中国	28.7	37.8	36.0	-	▲ 4.8
EU-27	15.3	15.1	13.1	▲ 0.5	▲ 13.9
日本	4.1	4.0	4.0	-	▲ 0.3
メキシコ	3.8	3.7	3.4	-	▲ 6.8
台湾	2.4	2.1	2.4	-	9.4
アルゼンチン	2.0	3.0	1.8	▲ 0.2	▲ 40.8
タイ	1.5	1.7	1.7	-	▲ 4.8
期末在庫量	62.7	53.1	45.8	▲ 4.1	▲ 13.7
アルゼンチン	22.6	21.8	17.1	▲ 2.6	▲ 21.4
ブラジル	18.2	19.1	16.4	▲ 0.7	▲ 14.0
中国	2.7	4.2	5.6	-	31.7
米国	15.6	5.6	4.5	▲ 0.5	▲ 19.6
EU-27	1.1	0.8	0.6	▲ 0.2	▲ 25.6
期末在庫率	27.8%	23.1%	20.3%	▲ 1.8	▲ 2.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」
「World Agricultural Production」

(2) 大豆の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国 【需給状況】

米国の生産量は、主産地である中西部での生育期における天候不順や洪水による生育の遅れが見られたものの、昨年度に大幅に縮小した作付けが大豆価格の高騰やとうもろこしの連作障害への懸念などから拡大しており、前年度より7.6百万トン増加（10.5%）し、80.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用以外での消費が増加するものの、搾油用の消費は減少すると見込まれることから消費量は前年度より2.6百万トン減少（▲4.9%）し、49.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、南米の輸出量が減少し、米国に輸出需要が集中すると見込まれることなどから、1.3百万トン増加（4.2%）し、32.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.1百万トン減少（▲19.6%）し、4.5百万トンとなり、期末在庫率は5.5%（1.2ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は搾油用の下方修正により消費量がわずかに下方修正され、南米の輸出量の減少を補う形で輸出量が0.7百万トン上方修正され、輸入量が0.1百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.5百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の大豆の主要18州の収穫は2008年11月頃に終了した。

作柄については、優良が12%と前年度最終より下回っているが、優良～普通までの合計では86%と前年度の最終の83%を上回っている。

なお、2009/10年度の大豆の作付は5月頃に始まる。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース73.5%）
世界の生産量シェア 1位（2008/09年度36.8%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度44.5%）

表－2 米国の大豆需給（市場年度：9月～翌年8月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	87.0	72.9	80.5	-	10.5
消費量	53.5	51.6	49.0	▲ 0.0	▲ 4.9
うち搾油用	49.2	49.0	44.5	▲ 0.1	▲ 9.2
輸 出 量	30.4	31.6	32.9	0.7	4.2
輸 入 量	0.3	0.3	0.3	0.1	22.2
期末在庫量	15.6	5.6	4.5	▲ 0.5	▲ 19.6
期末在庫率	18.6%	6.7%	5.5%	▲ 0.7	▲ 1.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.19	25.96	30.21	-	16.4
単収(t/ha)	2.88	2.81	2.67	-	▲ 5.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米国大豆の作柄

〔作柄〕

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
大豆	2008/09	12	45	29	10	4
	前年度同時期
	前年度最終	14	43	26	11	6

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」ただし、作柄については10月12日報告のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は前年同時期及び同時期の平年値（過去5年）との比較である。

イ ブラジル

【需給状況】

ブラジルの生産量は、金融危機による資金調達の困難性や肥料価格高騰などの影響を受け、前年度より4.0百万トン減少（▲6.6%）し、57.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用の減少に伴い前年度より0.3百万トン減少（▲0.9%）し、34.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少に伴い前年度より0.3百万トン減少（▲0.9%）し、25.1百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.7百万トン減少（▲14.0%）し、16.4百万トンとなり期末在庫率も27.5%（4.2ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、2007/08年度の消費量が0.1百万トン上方修正されたことで2008/09年度の期首在庫量が0.1百万トン下方修正され、搾油用消費量が0.4百万トン、輸出量が0.2百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が0.7百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ブラジルの大豆は、ブラジル南部では11月中旬から1月にかけて、深刻な干ばつがあった。2月には降雨があったものの、南部に位置するパラナ州の単収は前年度に比べ2割程度低下する見込みである。大豆の収穫進捗率は、4月18日現在で79%が終了している。

ウ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、前年度に低下した単収が上昇する見込みであることから、前年度より0.6百万トン増加（22.2%）し、3.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン減少（▲3.0%）し、1.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量が回復するものの在庫が低水準にあることなどから、0.1百万トン増加（7.0%）し、1.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年より0.1百万トン増加（52.4%）し、0.3百万トンとなり、期末在庫率は9.9%（3.3ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダの大豆は2008年11月頃に収穫が終了した。

なお、2009/10年度の大豆の作付は5月頃に始まる。

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 15.3%）
世界の生産量シェア 2位（2008/09年度26.1%）
輸出量シェア 2位（2008/09年度33.9%）

表－3 ブラジルの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	59.0	61.0	57.0 (57.5)	-	▲ 6.6
消費量	34.0	34.9	34.6	0.4	▲ 0.9
うち搾油用	31.1	31.9	31.7 (32.0)	0.4	▲ 0.9
輸出量	23.5	25.4	25.1 (23.6)	0.2	▲ 0.9
輸入量	0.1	0.2	0.1	-	▲ 66.7
期末在庫量	18.2	19.1	16.4 (21.5)	▲ 0.7	▲ 14.0
期末在庫率	31.6%	31.6%	27.5%	▲ 1.5	▲ 4.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.70	21.30	21.40 (21.30)	-	0.5
単収(t/ha)	2.85	2.86	2.66 (2.70)	-	▲ 7.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 3位（2008年数量ベース 8.8%）
世界の生産量シェア 7位（2008/09年度 1.5%）
輸出量シェア 5位（2008/09年度 2.6%）

表－4 カナダの大豆需給（市場年度：8月～翌年7月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	3.5	2.7	3.3 (3.3)	-	22.2
消費量	2.0	1.7	1.6 (1.9)	-	▲ 3.0
うち搾油用	1.5	1.4	1.3	-	▲ 6.0
輸出量	1.7	1.8	1.9 (1.8)	-	7.0
輸入量	0.2	0.3	0.4 (0.5)	-	13.3
期末在庫量	0.7	0.2	0.3 (0.3)	-	52.4
期末在庫率	18.4%	6.6%	9.9% (8.3%)	-	3.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.20	1.17	1.21 (1.20)	-	3.4
単収(t/ha)	2.88	2.31	2.73 (2.79)	-	18.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
AAFC「Pulse and Special Crops Outlook (March 6, 2009)」

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、北東部の作付け面積の増加と昨年度干ばつにより低下した単収の回復が見込まれることから、前年度より2.8百万トン増加（20.0%）し、16.8百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の増加等から前年度より1.2百万トン増加（2.4%）し、51.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年と同水準の0.5百万トンとなる見込みである。一方、輸入量は生産量の増加に伴い1.8百万トン減少（▲4.8%）し、36.0百万トンとなる見込みであるが、なお世界の貿易量の約5割を占めている。

この結果、期末在庫量は、生産量の増加により積み増しされることから前年度より1.3百万トン増加（31.5%）し、5.6百万トンとなり、期末在庫率も10.9%（2.4ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

中国北東部の主要産地では、2008年8月初旬に適度の降水量に恵まれ、大豆の生育は順調に推移し、10月頃に収穫を終えた。

【貿易情報】

中国については、増値税の輸出還付を取消し、輸出税を課している。12月1日からは、黄大豆と種子用大豆を除き輸出税は撤廃された。なお、一般的に味噌・豆腐・納豆等に用いられているのは黄大豆で、5%の据置き。

オ アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、価格高騰による作付け拡大やとうもろこしの生産コスト高などによる大豆への作付転換などが行われたものの、干ばつにより収穫面積が減少し単収が低下したことから、前年度より7.2百万トン減少（▲15.6%）し、39.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、搾油用需要の減少から前年度より0.9百万トン減少（▲2.4%）し、35.3百万トンとなる見込みである。

輸出量は、3.7百万トン減少（▲27.0%）し、10.1百万トンとなる見込み。

この結果、期末在庫量は、前年度より4.7百万トン減少（▲21.4%）し、17.1百万トンとなり、期末在庫率は37.7%（5.9ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、干ばつの影響により生産量が4.0百万トン、輸出量が1.6百万トン、輸入量が0.2百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が2.6百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

主要産地であるアルゼンチン東部の多くで干ばつの影響を受け、1月26日に非常事態が宣言された。2月に入り降雨があったものの平年以下の降水量であり、土壌水分を回復させる程ではなかった。大豆の収穫進捗率は、4月22日現在で61.7%である。

【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等が昨年3月から断続的にストライキを実施。その後7月に同制度の関連法案は廃案となった。また、農家は昨年10月に引き続き2月20日から4日間の日程で、政府の農業政策に抗議するストライキを実施。3月も大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

〔我が国の輸入先国シェア4位（2008年数量ベース 2.3%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 7.7%）
輸入量シェア 1位（2008/09年度48.648.1%）〕

表－5 中国の大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.0	14.0	16.8 (16.4)	-	20.0
消費量	46.1	49.8	51.0	...	2.4
うち搾油用	36.0	39.5	40.6 (39.7)	-	2.7
輸出量	0.5	0.5	0.5	...	0.0
輸入量	28.7	37.8	36.0 (36.0)	-	▲ 4.8
期末在庫量	2.7	4.3	5.6	...	31.5
期末在庫率	5.8%	8.5%	10.9%	...	2.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.28	8.70	9.30 (9.55)	-	6.9
単収(t/ha)	1.72	1.61	1.81 (1.72)	-	12.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

〔世界の生産量シェア 3位（2008/09年度17.8%）
輸出量シェア 3位（2008/09年度13.6%）〕

表－6 アルゼンチンの大豆需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	48.8	46.2	39.0 (42.5)	▲ 4.0	▲ 15.6
消費量	35.1	36.2	35.3	...	▲ 2.4
うち搾油用	33.6	34.6	33.7 (32.8)	-	▲ 2.6
輸出量	9.6	13.8	10.1 (10.3)	▲ 1.6	▲ 27.0
輸入量	2.0	3.0	1.8 (1.7)	▲ 0.2	▲ 40.7
期末在庫量	22.6	21.8	17.1 (24.5)	▲ 2.6	▲ 21.4
期末在庫率	50.6%	43.5%	37.7%	...	▲ 5.9
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.30	16.60	16.50 (16.80)	▲ 0.70	▲ 0.6
単収(t/ha)	2.99	2.78	2.36 (2.53)	▲ 0.14	▲ 15.1

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

3 なたね

(1) 国際的ななたね需給の概要

○2008/09年度のなたね需給（予測）のポイント

なたねの供給面では、インド、中国等の作付けの増加や、カナダ、EUで比較的良好な天候を背景に単収が増加し、世界の生産量は増加が見込まれている。

需要面では、バイオディーゼル需要の拡大に伴い、EU、カナダ等で搾油用需要を中心に世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、生産量が消費量を上回ることから在庫が積み増しされ、期末在庫率も上昇し、1割まで回復すると見込まれている。

【生産量】

生産量は、カナダ、中国、EU等の主要生産国で増加することから、世界全体では前年度より9.5百万トン増加（19.6%）し、57.9百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.4百万トン上方修正されており、国別にはインドが上方修正された。

【消費量】

消費量は、バイオディーゼル需要の増加などから油糧種子全般での需要増大により、EU、カナダ等で搾油用需要を中心とした増加が見込まれ、世界全体では前年度より5.7百万トン増加（11.6%）し、54.7百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはインド、EUで上方修正され、パキスタンで下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、前年度より2.9百万トン増加（35.7%）し、11.1百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、カナダ、オーストラリアが生産量の回復により輸出量の増加が見込まれている。一方、輸入国では、生産国でもあるEUが域内のなたね需要を満たすため、輸入量の増加が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体でわずかに上方修正されており、国別にはウクライナの輸出量、EUの輸入量が上方修正され、EUの輸出量、パキスタンの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量が消費量を上回ることから、カナダ等で積み増しされ、世界全体では前年度より3.0百万トン増加（87.9%）し、6.4百万トンとなり、期末在庫率も11.6%まで上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.2百万トン上方修正されており、国別にはEUが上方修正され、インドが下方修正された。

表－1 世界のなたね需給

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09 (単位:百万トン)		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	45.2	48.4	57.9	0.4	19.6
EU-27	16.1	18.4	19.1	-	3.7
カナダ	9.0	9.5	12.6	-	32.2
中国	11.0	10.6	12.0	-	13.5
インド	5.8	5.5	7.0	0.4	28.4
ウクライナ	0.6	1.1	2.9	-	163.6
オーストラリア	0.6	1.1	1.6	-	46.5
ロシア	0.5	0.6	0.7	-	10.8
消 費 量	46.4	49.0	54.7	0.3	11.6
うち搾油用	43.7	46.6	51.8	0.3	11.1
EU-27	16.6	19.1	21.0	0.2	9.6
中国	11.9	11.4	13.1	-	15.6
インド	6.4	5.9	6.6	0.4	12.9
カナダ	4.0	4.3	4.9	-	12.7
日本	2.2	2.3	2.4	-	4.7
メキシコ	1.1	1.2	1.3	-	5.3
パキスタン	1.0	0.9	0.8	▲ 0.3	▲ 5.8
貿 易 量	6.6	8.2	11.1	0.0	35.7
(輸出)					
カナダ	5.5	5.8	6.7	-	16.2
ウクライナ	0.5	0.9	2.6	0.1	183.7
オーストラリア	0.2	0.5	0.9	-	91.7
米国	0.2	0.4	0.2	-	▲ 47.1
EU-27	0.1	0.4	0.2	▲ 0.1	▲ 62.1
ロシア	0.1	0.1	0.1	-	25.0
カザフスタン	0.0	0.1	0.1	-	34.0
(輸入)					
EU-27	0.4	0.7	2.7	0.4	286.3
日本	2.2	2.3	2.4	-	4.1
中国	1.0	0.8	1.8	-	117.4
メキシコ	1.1	1.2	1.3	-	12.0
パキスタン	0.8	0.5	0.6	▲ 0.3	13.2
米国	0.6	0.9	0.9	-	3.0
アラブ	0.3	0.5	0.7	-	39.5
期末在庫量	4.7	3.4	6.4	0.2	87.9
カナダ	1.8	1.4	2.6	-	82.1
EU-27	1.4	1.0	1.6	0.2	61.2
インド	0.5	0.1	0.5	▲ 0.0	391.0
オーストラリア	0.3	0.3	0.4	-	28.4
ロシア	0.1	0.1	0.2	-	16.1
米国	0.1	0.2	0.2	-	57.0
日本	0.1	0.1	0.1	-	▲ 2.9
期末在庫率	10.0%	6.9%	11.6%	0.3	4.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

(2) なたねの主要生産・輸出国等の需給状況

ア カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、EUのバイオディーゼル需要を背景としたなたね価格の高騰による作付け拡大や、単収の回復基調により、前年度より3.1百万トン増加（32.2%）し、12.6百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.6百万トン増加（12.7%）し、4.9百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.9百万トン増加（16.2%）し、6.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.2百万トン増加（82.1%）し、2.6百万トンとなり、期末在庫率も22.0%（8.1ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

カナダのなたねは、2008年10月頃に収穫を終了した。生育期間中は良好な天候に恵まれ、マニトバ州、アルバータ州、サスカチュワン州で単収、品質ともに良好と報告されている。

なお、2009/10年度のなたねの作付けは5月頃に始まる。

イ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、小麦と同様に2年連続の干ばつの影響で低下していたが、主要な生産地であるウェスタンオーストラリア州を中心に、0.5百万トン増加（46.5%）し、1.6百万トンとなり平年並みの水準に回復する見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（5.6%）し、0.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加に伴い前年度より0.4百万トン増加（91.7%）し、0.9百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.1百万トン増加（28.4%）し、0.4百万トンとなり期末在庫率も27.7%（3.8ポイント減）と減少する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

オーストラリアのなたねは2月頃に収穫を終了した。

なお、2009/10年度のなたねの作付けは始まったところである。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース95.5%）
世界の生産量シェア 2位（2008/09年度21.8%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度60.3%）

表-2 カナダのなたね需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	9.0	9.5	12.6 (12.6)	-	32.2
消費量	4.0	4.3	4.9 (5.0)	-	12.7
うち搾油用	3.6	4.1	4.4 …	-	6.2
輸出量	5.5	5.8	6.7 (6.7)	-	16.2
輸入量	0.2	0.2	0.2 (0.1)	-	▲ 15.3
期末在庫量	1.8	1.4	2.6 (2.6)	-	82.1
期末在庫率	19.2%	13.8%	22.0% (22.3%)	-	8.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.24	6.23	6.49 (6.49)	-	4.2
単収(t/ha)	1.72	1.53	1.94 (1.95)	-	26.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC「Grains and Oilseeds (March 6, 2009)」

我が国の輸入先国シェア 2位（2008年数量ベース 4.5%）
世界の生産量シェア 6位（2008/09年度 2.7%）
輸出量シェア 3位（2008/09年度 8.1%）

表-3 オーストラリアのなたね需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	0.6	1.1	1.6 (1.6)	-	46.5
消費量	0.5	0.5	0.6 (0.8)	-	5.6
うち搾油用	0.5	0.5	0.5 (0.8)	-	5.9
輸出量	0.2	0.5	0.9 (0.8)	-	91.7
輸入量	0.1	0.0	0.0 …	-	0.0
期末在庫量	0.3	0.3	0.4 …	-	28.4
期末在庫率	36.7%	31.5%	27.7% …	-	▲ 3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	1.05	1.06	1.20 (1.17)	-	13.2
単収(t/ha)	0.54	1.00	1.30 (1.39)	-	30.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE「Australian crop report (February 17 2009)」

ウ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における義務的休耕率が一時的に0%と設定されたことにより、小麦の作付けを拡大したことで、小麦の転作作物であり作付が競合するなたねの収穫面積が減少するものの、温暖な冬の天候などにより単収が増加することから前年度より0.7百万トン増加(3.7%)し、19.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、バイオディーゼル需要の増加などから搾油需要が増加し前年度より1.9百万トン増加(9.6%)し、21.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.2百万トン減少(▲62.1%)し、0.2百万トンとなり、輸入量は前年度より2.0百万トン増加(286.3%)し、2.7百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.6百万トン増加(61.2%)し、1.6百万トンとなり、期末在庫率は7.7%(2.5ポイント増)と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、搾油用消費量が0.2百万トン、輸入量が0.4百万トン上方修正され、輸出量が0.1百万トン下方修正された。この結果、期末在庫量が0.2百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のEUのなたねは、全般的には生育に適した天候に恵まれたことから、良好な作柄となった。なたねの収穫は2008年8月頃に終了している。現在は、2009/10年度のなたねが生育期である。

エ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、価格の高騰などにより作付意欲が高まり、前年度より1.4百万トン増加(13.5%)し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.7百万トン増加(15.6%)し、13.1百万トンとなる見込みである。

輸入量は、前年度より1.0百万トン増加(117.4%)し、1.8百万トンとなり、期末在庫量は0.6百万トンで、期末在庫率は4.6%となっている。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度のなたねは、2009年1月以降、一部の地域(安徽省北部、河南省および湖北省北部等)では干ばつに見舞われた。2月初旬からの長雨によって、なたねの生産量が減る地域も予想される。現在は、収穫期に入ったところである。

世界の生産量シェア	1位 (2008/09年度33.0%)
輸入量シェア	1位 (2008/09年度 23.8%)

表-4 EU-27のなたね需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.1	18.4	19.1 (18.9)	-	3.7
消費量	16.6	19.1	21.0 (20.8)	0.2	9.6
うち搾油用	15.7	18.3	20.1 (19.9)	0.2	10.0
輸出量	0.1	0.4	0.2 (0.1)	▲ 0.1	▲ 62.1
輸入量	0.4	0.7	2.7 (3.1)	0.4	286.3
期末在庫量	1.4	1.0	1.6 (2.0)	0.2	61.2
期末在庫率	8.6%	5.2%	7.7% (9.4%)	1.0	2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.41	6.58	6.25 (6.21)	-	▲ 5.0
単収(t/ha)	2.98	2.80	3.05 (3.04)	-	9.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

世界の生産量シェア	3位 (2008/09年度 20.7%)
輸入量シェア	3位 (2008/09年度 15.7%)

表-5 中国のなたね需給(市場年度:10月~翌年9月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	11.0	10.6	12.0 (11.6)	-	13.5
消費量	11.9	11.4	13.1 ...	-	15.6
うち搾油用	11.5	10.9	12.5 (12.8)	-	15.1
輸出量	0.0	0.0	0.0 ...	-	0.0
輸入量	1.0	0.8	1.8 (2.1)	-	117.4
期末在庫量	0.6 ...	-	...
期末在庫率	4.6% ...	-	...
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.98	5.64	6.50 (6.82)	-	15.2
単収(t/ha)	1.83	1.87	1.85 (1.70)	-	▲ 1.1

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

オ インド

【需給状況】

インドの生産量は、生育期に天候に恵まれたことから、収穫面積と単収が増加する見込みであり、前年度より1.5百万トン増加（28.4%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン増加（12.9%）し、6.6百万トンとなる見込みである。

輸出货量、輸入量とも貿易の実績はほとんどない。

この結果、期末在庫量は、前年度より0.4百万トン増加（391.0%）し、0.5百万トンとなり、期末在庫率は7.4%（5.7ポイント増）となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫結果を受けて生産量が0.4百万トン、消費量が0.4百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量がわずかに下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

インドのなたねの収穫は3月頃に終了した。

（世界の生産量シェア 4位（2008/09年度 12.1%））

表－6 インドのなたね需給（市場年度：10月～翌年9月）

（単位：百万トン）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(Oil.W)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	5.8	5.5	7.0 (6.6)	0.4	28.4	
消費量	6.4	5.9	6.6	...	12.9	
うち搾油用	5.7	5.2	6.0 (5.1)	0.4	14.2	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0	...	0.0	
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	▲ 20.0	
期末在庫量	0.5	0.1	0.5	▲ 0.0	391.0	
期末在庫率	7.7%	1.7%	7.4%	▲ 0.7	5.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	6.64	5.70	6.60 (6.55)	▲ 0.40	15.8	
単収(t/ha)	0.87	0.96	1.06 (1.01)	0.12	10.4	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Oilseeds: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
OIL WORLD「OIL WORLD Monthly (March 27, 2009)」

Ⅲ 今月のトピックス

【大豆を巡る中国国内の需給状況】

国際的な大豆の供給面では、南米の干ばつの影響により生産量の減少が見込まれる中、消費量は中国が搾油用需要を中心として拡大しているものの、米国等で減少し、世界全体の消費量は減少すると見込まれている。しかしながら、消費量が生産量を上回ることから、期末在庫率は減少すると見込まれており、中国の旺盛な需要が続いていることから、大豆の国際価格は上昇基調にある。
大豆を巡る中国国内の需給状況について、最近の動向について詳細に見てみる。

1 中国の大豆の需給概況

中国国際青年会議所（JCI）によると2008年産大豆の生産量は、北東部の作付け面積の増加と前年度干ばつにより低下した単収の回復することから、前年度より317万トン増加し、1,650万トンとなる見込みである。また、輸入量も39万トン増加し、3,820万トンとなる見込みである。（注）これは世界の貿易量の約5割を占めている。

一方、消費量は食用／加工向け消費の増加から前年度より19万トン増加し、5,006万トンと見込まれている。

生産量と輸入量の増加分のほとんどは期末在庫に積み上げられると見られている。

注：米国農務省では、中国の大豆の輸入量は、生産量の増加に伴い減少するとの見方をしており、この点は見解が異なり注視が必要である。（33ページ参照）

2 国内大豆価格の下落

中国では、シカゴ商品取引所（CBOT）の昨年夏以降の大豆の先物価格の急落に伴い、昨年11月に輸入先国から出荷される大豆の輸入価格が国産大豆の国内市場価格よりも安い水準となることが予想されていた。

一方、国内では、昨年10月以降、経済危機の影響などから大豆油と大豆ミールの販売が思わしくないため、搾油工場は2008年産大豆の仕入れに慎重な姿勢を示している。

このような中、大豆の国内市場価格は、2008年産大豆が市場に出荷された昨年9月直後から、価格の下落が始まり、現在に至っても下落傾向は続いている。これは平年には見られない現象である。

3 政府の価格下落対策等

中国政府は、国内市場価格の下落対策と農家の利益保護を目的に国家備蓄用として、昨年末からこれまでに合計で600万トンの国産大豆の買上げを表明し、順次、国内市場価格より高い価格で買上げを実施している。

- ・ 2008年11月 150万トンの買上げを表明。
- ・ 12月 150万トンの追加買上げを表明。
- ・ 2009年2月 300万トンの追加買上げを表明。

なお、3月時点では、国産大豆は政府買上げの品質基準を満たせず、農家からの買上げ作業はあまりはかどっていない。

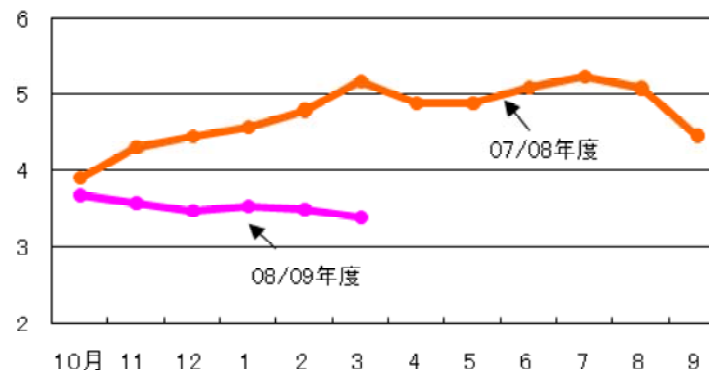
表 中国における大豆の需給表（2009年4月）

単位：1,000トン

作物年度（10月～9月）	07/08	08/09
期首在庫	3,392	4,220
収穫量	13,330	16,500
輸入量	37,815	38,200
供給量合計	54,537	58,920
国内消費量	49,870	50,060
食用／加工向け消費量	10,700	11,510
搾分合計	38,042	37,500
種子分	680	650
損失分	448	400
輸出货量	447	420
期末在庫	4,220	8,440

資料：JCI China

図－1 大豆の中国国内市場価格の推移
（千円/トン）



資料：JCI China

4 農家と国内搾油業者の動き

2008年産の大豆の収穫以降、国産大豆の国内市場価格が下落している中、農家は、政府が価格の上昇を促す対策を相次いで打ち出してくれることを期待して、新たに収穫された大豆の市場への出荷を見合わせる状況が続いた。

また、国内の搾油工場は、大豆の輸入コストの減少を踏まえて、仕入れ価格を急激に下げる工場もみられ、農家側の売り渋りと相まって、黒龍江省では大豆の取引がほぼストップする事態となった。

一方、政府による国内市場価格維持のための大豆買上げと、大豆の輸入価格の値下がりにより、12月以降、輸入大豆を国産よりも安く仕入れることができる状況となり、搾油業者が輸入大豆を原料とし設備稼働率を徐々にあげ始めた。1月に入ってから高収益を見込んで一部の搾油業者が米国産大豆を大量に輸入していることが、米国農務省（USDA）のデータで裏付けられている。

しかしながら、2月に入っても農家は搾油業者から提示されるよりも格段に高い価格を当て込み、売り渋る姿勢を崩さず、国内の大豆市場は全体的に相変わらず低調なままであった。ただし、この状況も3月になると一変し、春季の植え付けを間近に控えた農家が大豆の在庫を売りさばこうと躍起になっている。

なお、南部沿岸地域では、2月に輸入大豆の入荷が相次いだ。最近の積極的な買付状況から判断すると、今後も入荷が増えるのは間違いない。しかし、飼料部門の大豆ミールの需要が低調で、大豆油の価格も下落しているため、大豆の需要が減退し、供給がだぶついてきた。今後、供給過剰に陥ることを懸念して、すでに予約していた外国産大豆の積荷を解約しようと試みた買付業者もあると言われている。

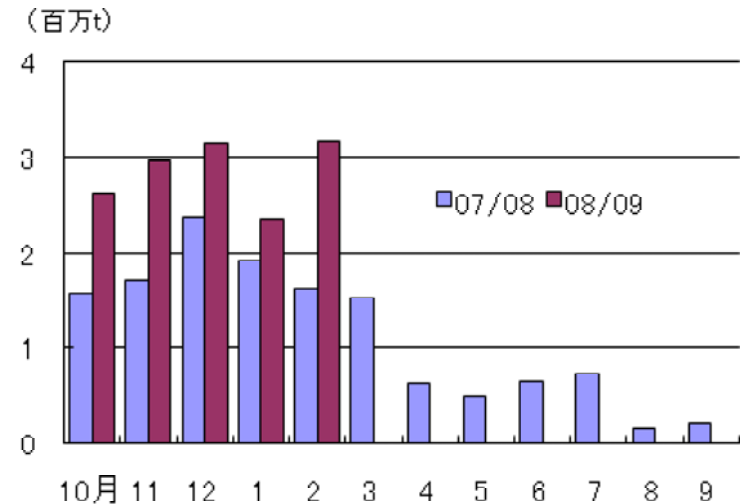
5 今後の見通し

中国では、1～3月までの間に大豆の輸入量1,015万トン（前年同期比30%増）を記録したが、この急激な輸入増加は、一方で、大豆の国家備蓄と在庫の大幅な増加という状況ももたらしている。

ただし、ここ数ヵ月、中国の大豆の買付業者による輸入成約量は鈍化してきており、中国は国内の価格を維持するために大幅な政府買入れを行ってきたが、このことが国内供給の不足を招き、輸入大豆が大量に国内に供給されたことで、今後、中国の旺盛な需要は緩やかに下降をたどるとの見方もされている。

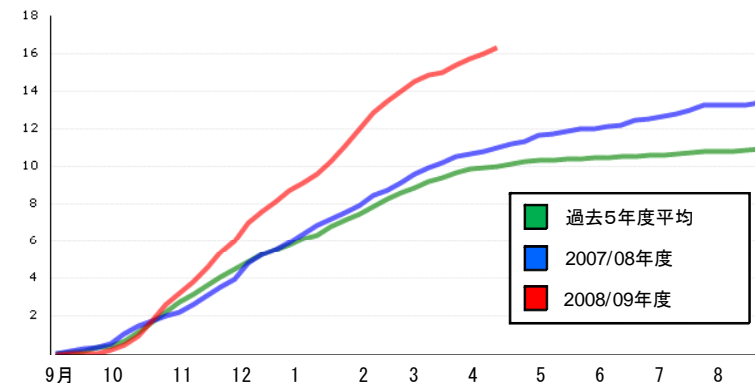
また、一部の農家が、在庫として抱える2008年産大豆をいまだに販売できずにいる中、2009年産大豆の生産に必要な資材（大豆種子、肥料、農薬、農具等）の売上げが昨年同期と比べて著しく低下している現状があることから、2009年産大豆の生産意欲の低下が懸念されている。このため、政府は、国家備蓄用大豆の品質基準を引き下げて、買上げのスピードアップを図るのではないかと見方もある。

図－2 中国の米国からの月別大豆輸入量の推移



資料：米国農務省「FAS online」

図－3 中国の米国における大豆の輸入成約状況（累積）

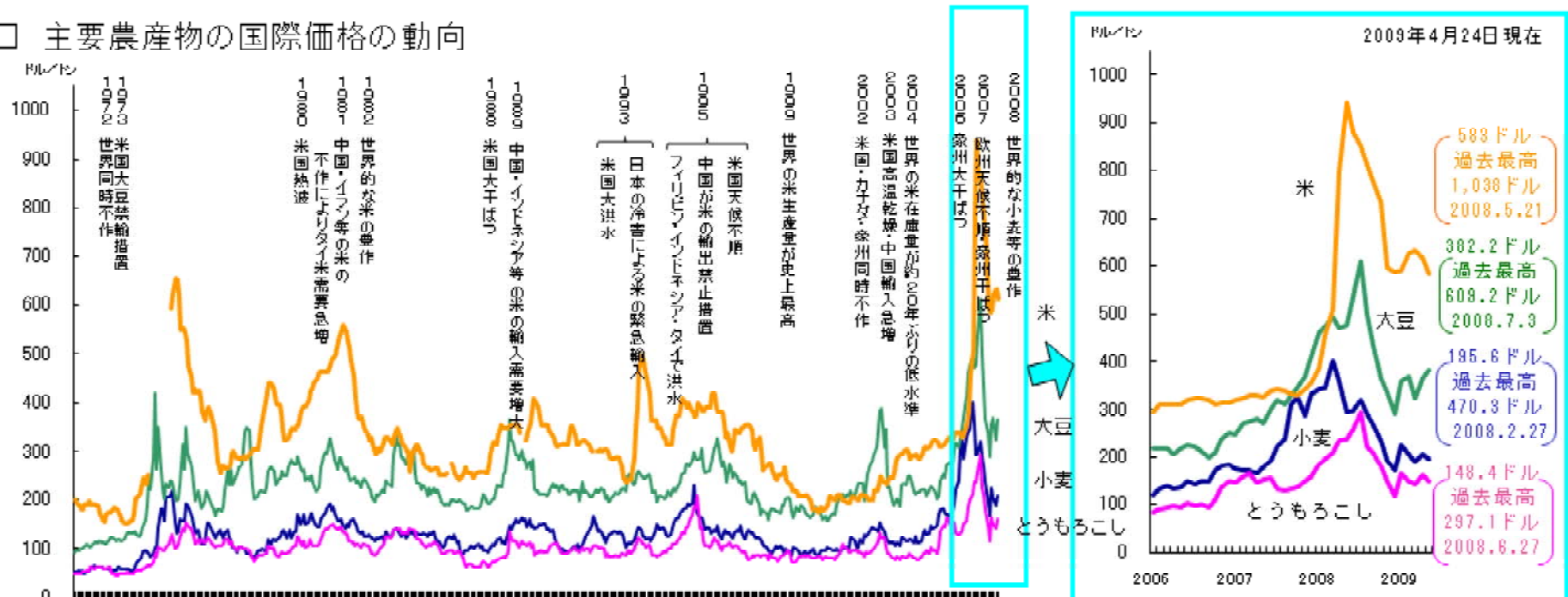


資料：米国農務省「FAS online」

【参考】穀物等の国際価格の動向（グラフ）

- 穀物等の国際価格は、2006年秋頃から上昇基調で推移。その背景には、穀物市場への投機資金流入といった要因もあるが、基本的には、穀物の種類によって差異はあるものの、
 - ① 中国やインド等の途上国の経済発展による食料需要の増大、
 - ② 世界的なバイオ燃料の原料という食料以外の需要の増大、
 - ③ 地球規模の気候変動の影響
 といった中長期的に継続する構造的な要因があり、こうした状況の中で、輸出国による輸出規制も影響している。
- なお、米の価格上昇については、農産物の中でも特に貿易量の割合が低く、輸出を少数かつ特定の国で占めている中で、ベトナム、インド等の主要輸出国で輸出規制が相次いで実施されたことが、主な要因となっている。
- 現在は、小麦等の豊作予測に加え、世界金融危機による商品市場からの投機資金の流出、世界的な不況による穀物需要の減退懸念などから最高値に比べ大幅に低下したものの、2006年秋頃に比べ1.4～1.9倍の水準。
- また、食料需給状況の中長期展望では、当面、従来に比べ高い水準の価格が続くものと見込まれており、食料価格高騰問題への対応については、FAOやG8等の国際会議などで議論が行われている。

□ 主要農産物の国際価格の動向



注：小麦、とうもろこし、大豆は、各月ともシカゴ商品取引所の第1金曜日の期近価格である。
 米は、タイ国貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注1：各月第1金曜日（米は第1水曜日）に加え、直近の最終金曜日（米は最終水曜日）を記載。
 注2：米以外の過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における最高価格

【利用上の注意】

海外食料需給レポート (Monthly Report) は、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて調査した情報、公的機関 (各国政府機関、FAO、IGC等) の公表資料、民間の調査会社 (Oil World、インフォーマ社情報等) から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者によるワーキンググループ (※参照) において検証、整理、分析したものである。

※ワーキンググループメンバー：

大臣官房食料安全保障課、大臣官房国際部国際政策課、主要穀物等の所管課 (総合食料局食品産業振興課、食糧部計画課、食糧貿易課、生産局畜産部畜産振興課)、食品産業関係課 (総合食料局食品産業振興課、生産局生産流通振興課、畜産部畜産振興課)、農林水産政策研究所

- 海外食料需給レポート (Monthly Report) で使用している統計数値は、主に米国農務省が4月22日までに発表した当月分の情報を引用している。さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページ (<http://www.usda.gov/wps/portal/usdahome>) を参照されたい。
主な参考資料
「World Agricultural Supply and Demand Estimates (April 2009)」、
「Grain: World Markets and Trade (April 2009)」、
「Oilseeds: World Markets and Trade (April 2009)」、
「World Agricultural Production (April 2009)」、
「PS&D (April 2009)」など
- 2008/09年度の数値は予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されるものである。また、2006/07年度、2007/08年度の数値も、公式統計の確定・発表などを受けて今後変更されることがある。したがって、本資料に掲載している数値を利用する際は、今後変動しうる数値である点に留意いただきたい。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として設定されている。同じ市場年度であっても、国、作物によって年度の開始月は異なる。収穫の時期が1年間に2回ある作物の場合は、どちらか一方の収穫時期に合わせて市場年度が設定されている。
例：米国小麦の2008/09年度は、2008年6月から2009年5月であり、この時期に収穫される作物に関して予測が行われる。2008/09年度であれば、2007年9月～10月に作付けされ2008年6月～7月に収穫される冬小麦と、2008年4月～5月に作付けされ2008年8月～9月に収穫される春小麦が、予測の対象となる。
各国別、作物別の市場年度は、米国農務省のホームページに掲載されている。
<http://www.fas.usda.gov/psdonline/psdAvailability.aspx>
- 各数量については、各国の市場年度により作成しているため、A国からB国に穀物等が輸出された場合、輸出された時点のA国の市場年度と輸入された時点のB国の市場年度が異なる場合がある。このため、世界合計の輸入量及び輸出量の両者の総量は一致しない場合がある。
また、各国の需給バランスについては、
$$\text{前年度期末在庫量} + \text{生産量} + \text{輸入量} = \text{消費量} + \text{輸出量} + \text{当年度期末在庫量}$$
となっており、これらを合計した世界計も同様の需給バランスとなっている。
したがって、世界合計の輸入量と輸出量が一致していない (世界合計の輸入量 ≠ 世界合計の輸出量) 場合には、
$$\text{前年度期末在庫量} + \text{生産量} \neq \text{消費量} + \text{当年度期末在庫量} \rightarrow \text{生産量} - \text{消費量} \neq \text{当年度期末在庫量} - \text{前年度期末在庫量}$$
となり、生産量と消費量の差が期末在庫量の増減量と一致しないことに留意いただきたい。
- 「今月のトピックス」については、干ばつ等の異常気象など特に注目すべき情報や各種機関等から最近公表された食料需給等に関連するレポートの内容の紹介など、さまざまな関連情報について提供することを目的としたものである。
- 本資料の引用等については、出所 (農林水産省発行「海外食料需給レポート (Monthly Report)」) を併記されたい。